

ダビデの生涯 からの教訓



目次

1. 静かで、控えめな青年	5
2. 巨人に打ち勝つ	10
3. 危機	15
4. 兄弟愛	20
5. 品性を発達させる	25
6. ダビデとサウル	31
7. 危険な妥協	36
8. 低い者が高められる	41
9. 神の知恵のうちに成長する	46
10. 成功の秘訣	52
11. 高められた者が低くされる	57
12. 胸が張り裂けるような結果	62
13. 憐れみと正義という遺産	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.97, No.1

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Advent Digital
Media on the front cover;
Map Resources on pp. 4, 30,
72; Good Salt on pp. 51, 72.

まえがき

今期の安息日学校の学びは、ダビデの生涯からの教訓に基づいています。なぜこの主題の研究は、今日わたしたちにとってとても重要なのでしょうか？

「ダビデの生涯は、権力、富、世的榮譽が、魂にどんな危険を及ぼすかを最も印象的に示した例の一つである。」（人類のあけぼの下巻 456）

「ダビデは代表的な人であった。彼の歴史は、永遠の勝利のために奮闘しているすべての魂にとって関心のあるものである。彼の生涯において二つの勢力が支配しようと苦闘していた。不信がその力を終結させ、神の御座から彼の上を照らす光を覆い隠そうとしていた。日々、戦いは彼の心の中で続けられ、サタンは、義の勢力が一步前進するたびに抵抗した。ダビデはもろもろの支配と、権威と、闇の世の主権者に対して戦うことの意味を理解していた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1142, 1143）

「神は謙遜な羊飼いだビデがご自分の民を支配するように選ばれた。彼はユダヤ宗教に関連するすべての儀式について厳密であった。そして彼はその大胆さと神への揺るがない信頼において卓越していた。彼はその忠誠と敬神に際立っていた。彼の堅固さ、へりくだり、正義への愛、そして品性の決断力が、神の高いご目的を実行し、イスラエルをその献身において教え、寛容で賢明な君主として彼らを治める資格を与えていた。」（預言の霊 1 巻 377）

「彼の生涯の記録は、罪がただ恥と災いだけをもたらすものであることを示している。しかし、神の愛とあわれみは、どんな深みにも達し、信仰は、悔い改める魂を引き上げて、神の子としての身分にあずからせることを明らかにする。それは、神のみ言葉の中のすべての確証の中で、神の誠実と正義と神の契約のあわれみに関する最も強力なあかしの一つである。」（人類のあけぼの下巻 468）

「実のない木が地をふさぐものとして切られるとき、偽りの兄弟たちの群衆が真の者と区別されるとき、そのとき隠されていた者が視界に現われるようになり、ホサナの叫びと共にキリストの旗印の下に隊列をなす。臆病で自分を信頼してこなかった人々は、自ら公にキリストとその真理を宣言する。教会で最も弱くためらっていた者が、ダビデのように、喜んで行い、毅然とたち向かう者となる。」（教会への証 5 巻 81）

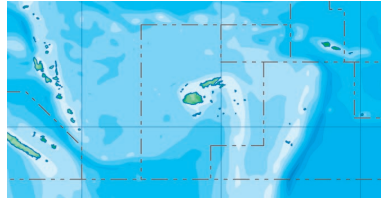
キリストの御霊が、今期の間、わたしたちのダビデの生涯の研究を導き働いて下さるよにというのが、わたしたちの祈りです。わたしたちはわたしたちの創造主にして神なるお方の完全に調和の取れた正義と憐れみについてより深く理解することによって、思いを強固にしましょう！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

南太平洋ユニオンミッションセンターのために

太平洋は世界最大の大洋で、地上の 3 分の 1 を覆っており、幾百の諸島国家の家郷です。歴史的に南太平洋にあるこれらの国々は、異教の慣習で知られており、魔術や食人なども行われています。これらの島々への伝道者が福音のメッセージを伝えようとして命を落とした数は少なくありません。今日、これらの中のある慣習はまだ残ってはいるものの、キリスト教はこれらの国々に多大な影響を与えてきており、様々な異教の慣習による闇に代わって、福音の光と希望を与えています。



改革のメッセージが 1970 年代と 80 年代に南太平洋のある国々に届きましたが、それがよりしっかりと確立したのは、オーストラリアと世界総会から伝道者が訪れ、わたしたちの沿岸に到着した 1990 年代後半です。

2013 年 12 月に働きが確立していた国々において、七つのミッションフィールドから代表が共に南太平洋連合ミッションを組織しました。遠大な距離の問題があり、またこの世の財産には豊かではありませんが、わたしたちは南太平洋を通じて働きが広まり、多くの魂が真理を伝えられていることのゆえに神を讃美します。

礼拝、集会、青年会、また青年たちの伝道者育成訓練、加えてユニオンのための事務所など、様々な目的のためのセンターが必要でしたが、実現してきました。土地は、およそ 80 の島々からなる国であるバヌアツのポルト・ヴィラから行きやすい地方に購入しました。バヌアツは人々がフィジー、仏領ポリネシア、ニューカレドニア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、そしてサモアのミッション伝道地から集まることのできる中心的な場所です。

わたしたちの前にある大きな働きと南太平洋にあるまだ伝えられていない多くの島々や国々を見て、わたしたちは働きが本当に大きいことを認めます！救いのメッセージはすべての地に伝えられなければなりません。しかし、わたしたちには「彼は衰えず、落胆せず、ついに道を地に確立する。海沿いの国々はその教を待ち望む」と言う保証があります（イザヤ 42:4）。

わたしたちは皆さんにこの事業に惜しみなく捧げて下さることによって、わたしたちの必要を資金的に助けて下さるようお願い致します。この助けはこの広大な太平洋における魂たちに福音を広める助けとなります。

南太平洋における皆さんの兄弟より

静かで、控えめな青年

「しかし主はサムエルに言われた、『顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る』」(サムエル記上 16:7)

「ダビデは聖霊の感化を受けやすかった。そして主はご自分のみ摂理のうちに彼をご自分の奉仕のために訓練され、ご自分の目的を実行する準備をされた。キリストが彼の品性の建設者の頭であられた。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 2 卷 1018)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 310-315

日曜日

12 月 27 日

1. 自然の人里離れた場所で

- a. ダビデは田舎における自分の幼少の環境から、何を悟りましたか (ローマ 1:20; 詩篇 8:3-9)。そのような環境は、どのように霊的な発達に資するものとなりましたか (詩篇 24:1)。

「活気に満ちた少年ダビデは、ベツレヘムのまわりの山々で、草を食べる羊の番をしていた。」(人類のあけぼの下巻 310)

「キリストはまた、……羊の群れの番をしていた少年ダビデと語られた。」(各時代の希望上巻 375)

- b. 今日、青年たちはダビデと同じような初期教育から、どのような益を受けることができますか (詩篇 19:1-3; 119:9, 97, 113)。

「諸天は〔青年たちにとって〕教科書となることができる。そこから彼らは非常に興味深い教訓を学ぶことができる。月や星は彼らに連れ立ち、彼らにもっとも雄弁な言葉で神の愛を語るすることができる。」(ユース・インストラクター 1900 年 10 月 25 日)

2. 詩篇記者の心

- a. ダビデに詩や音楽の賜物をお与えになった神のご目的は何でしたか（詩篇 105:1, 2; 66:16, 17）。

「単純な羊飼いの少年は、自分自身が創作した歌をうたい、彼の豎琴の音楽は、彼の新鮮な若い声の旋律に美しく伴った。主はダビデを選ばれ、彼の生涯を導かれて、彼の声を訓練し、彼らの音楽と詩に対するタラントを培う機会を得られるようになされた。主は後年彼に任せようと意図しておられた働きのために、彼を自分の群れと共にいる孤独な生活において準備しておられた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 2 巻 1018）

- b. 各時代において忠実な人が、どのように羊飼いとしてのダビデの経験から大いなる霊的な祝福を刈り取ってきたかを説明しなさい（詩篇 66:1-6; 100:3）。

「〔ダビデ〕は、日ごとに神と深く交わった。彼の心は、常に彼の歌に靈感を与え…る新しい主題を、深くさぐっていた。

いったいだれがこうした寂しい山の中の長年の苦労と放浪の結果を知ることができよう。自然と神との交わり、羊たちの世話、危険と救出、悲哀と歓喜、低い境遇などは、ダビデの品性を形成し、彼の後の生涯に影響を与えただけではなかった。それは、イスラエルの美しい詩人の詩篇として書き残されて、その後のすべての時代の神の民の心に愛と信仰を呼び起こし、すべての被造物に命を与えられた主の愛の心に、彼らを近づけているのである。」（人類のあけぼの下巻 314）

「詩篇記者は自然界における神の律法と、知性ある神の被造物に与えられた律法を結びつけている。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 3 巻 1144）

「〔詩篇 66:1-5 引用〕。キリストはよくこの詩篇と 68 章と 72 章の部分を歌われた。」（同上 1148）

「忍耐強い落ち着きをもって〔キリストは〕大工の作業場で、ご自分の同僚からの冷笑、あざけり、そして愚弄に応じられた。怒りに訴える代わりに、彼はダビデの美しい詩篇の一つを歌い始めるのであった。すると、彼の同僚たちは自分でも気がつかないうちに、彼と一緒に讃美するのであった。」（同上 7 巻 936）

3. 自分たちの有限な展望を自覚する

- a. 神が預言者サムエルを遣わし、エッサイの息子のひとりを王にするために油を注がせるにあたり、彼の理解力に限度があったことを説明しなさい (サムエル記上 16:1-6)。

「〔エリアブ〕の貴公子のような姿を見たサムエルは、『この人こそ、神がサウルの後継者として選ばれた人だ』と思った。そして、彼は、この人に油を注ぐようにという神のゆるしを待った。ところが主は、外観を見られなかった。エリアブは、主をおそれなかった。もしも彼が王位に召されたならば、高慢で苛酷な支配者になったことであろう。」(人類のあけぼの下巻 311)

- b. わたしたちはサムエルのこの経験から一特に様々な種類の指導者を選び、わたしたちの中にいる青年たちの将来を見るときに一何を学ぶべきですか (7 節；ヨハネ 7:24)。

「顔の美しさや姿の気高さによる評価が当てにならないことを、サムエルの失敗から学ばなければならない。天からの特別な光を受けなければ、われわれは人間の知恵では、人の心の秘密も、神の勧告も理解することができないことを悟るのである。被造物に対する神の思いと方法とは、われわれの有限な心の思いを越えている。しかし、もし、神の子供たちが、人間の曲がった心によって神の恵み深い計画を無にしないように心がけ、その意志を神に従わせていさえすれば、彼らは、必ずそれぞれの力量に応じた地位を占め、彼らにゆだねられた任務を完成することができるのである。」(同上 312)

「『数人を徹底して教育すれば、すべての重要不可欠な要求にこたえるのではないだろうか?』

否、わたしは最も断固として否と答える。わたしたちの青年から、どのような選択ができるであろうか。わたしたちはだれが最も有望であるか、だれが神に最上の奉仕を捧げるかを、どのように告げることができるだろう? わたしたちの人間の判断では、サムエルが主に油注がれた者を見出すために遣わされながら外面を見たように、同じことをするかもしれない。…どの家族が神のみ働きにおいて有能であることを表すと、だれが決められるだろうか? すべての青年はわたしたちの学校で教育を受ける祝福と特権を持つことが許されるべきである。こうして彼らが靈感を受けて神と共に働く共労者となることができるためである。」(教会への証 6 巻 197)

4. 驚くべき選択

a. 神の選択とこのお方のご計画の知恵を述べなさい (サムエル記上 16:8-12)。

「神がダビデをその父親の羊の群れから、イスラエルの王として油を注ぐために召されたとき、このお方は彼のうちにご自分の御霊を注ぐことのできる者をご覧になった。」(勝利されたキリスト 146)

「ダビデは背が高い者ではなかったが、彼の顔は美しく、謙遜、正直、そして真の勇気を表現していた。神の御使は、サムエルにダビデこそ油を注ぐべき者であることを知らせた。なぜなら、彼は神に選ばれた者だったからである。この時から、主はダビデに分別と理解力のある心をお与えになった。」(霊的賜物 4A 巻 78)

b. 青年たちを自分たちの保護下で導く際に、両親と教師は、何を理解すべきですか (箴言 15:33; 伝道の書 7:8)。

「サムエルが選ぼうとした兄たちは、神がイスラエルの王として必要と思われる資格をそなえていなかった。高慢で、自己中心で、自信に満ちた彼らは退けられ、彼らから軽みなされていた者、青年らしい単純さと誠実心をもった者、自分で自分をとるに足りないものに思っていた者、王国の責任を負うために神から教育される可能性のある者が選ばれた。同じように今日も、非常に有望視されている子供にあらわれている才能よりも、はるかにすぐれた才能が親からみすごされている多くの子供たちの中にひそんでいるのを、神はご覧になるのである。

人生の機会については、だれがその大小を決定することができるだろう。社会の低い地位にありながら世人の祝福となる活動を始めて、王侯もうらやむような業績をなしとげた働き人がどんなに多いことであろう。だからすべての子供を最高の奉仕のために教育しなければならない。」(教育 315)

『「仕えられるためではなく、仕える」ことが、わたしたちの学ぶべき、また教えるべき大きな教訓である (マタイ 20:28)。

青年たちに、彼らは自分自身のものでないという考えをきざみつけるべきである。青年はキリストに属する者である。その血潮で買われ、キリストが愛されて自分のものであると主張されているものである。キリストによって守られているため青年は生きているのである。その時間も体力も能力もキリストのものであり、キリストのために用いるように発達させ、訓練しなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 366)

5. 以前と同様に謙遜で慎しみ深い

a. 青年ダビデの態度に何が反映していましたか（詩篇 23:1-6; 71:5）。

「羊飼いの少年としての経験が美しい言葉となって反映している。〔詩篇 23:1-4 引用〕。」（教育 190）

b. サムエルの秘密の任務の目的と結果を説明しなさい（サムエル記上 16:13）。

「サムエルは、エッサイの家族にさえ、彼が来た用向きを知らせなかった。そして、ダビデに油を注ぐ式は、秘密のうちにこなされた。これは若者に大きな運命が待っていることを暗示した。このことは、後になって、彼があらゆる種類の経験や危険に会いながらも、彼の生涯によって神が成し遂げようとした神のみこころへの忠誠を彼に促すためであった。

ダビデには大きな栄誉が与えられたが、高慢にならなかった。彼は、高い地位に着くことになったが、静かに自分の職業を続け、主が、ご自身のときと方法によって主の計画を進められるのを待つて満足していた。羊飼いの少年は、油を注がれる前と同じけんそんな気持ちで、山にもどって、以前と同様に羊の群れをやさしく見守り保護した」（人類のあけぼの下巻 313）

「青春の美と活気に満ちていたダビデは、地の高貴な人たちと同じ高い地位に着く準備をしていた。彼の才能は、神からの尊い賜物として、与え主であられる神の栄光を賛美するために用いられた。…そして、彼が自分の生涯のすべての摂理の中に、神の愛をながめるとき、彼の心は熱烈な賛美の感謝に脈打ち、彼の口からはさらに美しい旋律が流れ、たて琴は歓喜にあふれてかきならされた。こうして、羊飼いの少年は、力から力へ、知識から知識へと進んでいった。それは、神の霊が彼と共におられたからである。」（同上 314, 315）

個人的な復習問題

1. 自然における神の創造の中で過ごす霊的な恩恵を説明しなさい。
2. ダビデの詩篇から、わたしはどのような個人的な益を引き出すことができますか。
3. わたしたちはみな、サムエルに与えられた教訓から、何を学ぶべきですか。
4. エッサイの家庭の経験から、いくつかの重要な点を挙げなさい。
5. ダビデが静かに油を注がれたことに対する彼の反応から、わたしたちはどのように鼓舞されることができますか。

巨人に打ち勝つ

「またこの全会衆も、主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであらう。この戦いは主の戦いであって」(サムエル記上 17:47 (上句))

「私たちの世界に与えられた最も厳粛なメッセージを伝える者は、拳闘用具を脱いで、キリストの義の武具を着なければならぬ。」(伝道上卷 225)

推奨文献： 教会への証 3 卷 212-221

日曜日

1月3日

1. より深い信頼を学ぶ

a. 将来の課題を扱うための知恵と経験を得るために、ダビデはどのように神のみ摂理に協力しましたか (サムエル記上 16:14-23)。

「神のみ摂理のうちに、ダビデは上手な琴の奏者として、王の前に連れてこられた。羊飼いの少年はイスラエルの統治者の前で奏するために、そして、もし可能であれば、サウルの思いに暗雲のようにたれこめていた思い悩む憂鬱を払いのけるために雇われた。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 3 日)

「ダビデは、ますます神と人から愛された。彼は、主の道を歩くように教えられていたが、ここで、これまで以上にもっと神のみこころを行なおうと決心した。彼は、新しい主題について考えていた。彼は、王の宮廷に出入りして、王の責任がどんなものであるかを悟った。彼は、サウルの魂を悩ます誘惑を見だし、イスラエルの最初の王の性格と行状の秘密を見抜いた。……しかし、彼は、物思いに沈み、心が苦しくなると、琴をかきならしてすべてのよい物の与え主であられる神のことを考えるのであった。こうして、彼の将来をかげらせるように思えた暗黒が消えるのであった。

神は、ダビデに信頼という教訓を与えておられた。主は、モーセをその任務のために訓練されたように、エッサイのむすこに神の選民の指導者になる準備を与えておられた。彼は、自分の羊群の世話をしながら、偉大な牧者であられる主が、彼の牧場の群れを養われることを理解した。」(人類のあけぼの下巻 317)

2. 危機において優先事項が表れる

- a. この時、全イスラエルに、どの深刻な問題が降りかかりましたか (サムエル記上 17:1-11)。

「ペリシテ人は彼ら自身のやり方で、巨大な大きさと力で背丈が 12 フィートもある者を選んで戦いを申し出た。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 2 巻 1018)

「イスラエルの軍勢は、四十日間もペリシテの巨人のごう慢な挑戦に震えていた。……彼は頭に青銅のかぶとをかぶり、身には重さ五千シケルのよろいを着ていた。また足には青銅のすね当てを着けていた。このよろいは、青銅の板をうろこのように重ねたもので、どんなやりや矢も通さないように細かく結び合わされていた。」(人類のあけぼの下巻 320)

- b. この危機において、ダビデの主な懸念は何でしたか (サムエル記上 17:21-26)。

「〔ダビデは〕生ける神の誉とイスラエルの子らの信任を守るための熱心さに燃えた。彼はこの大胆な偶像礼拝者が来る日も来る日も主の選ばれた者をあざけることを、その誇り高い高慢なあざけりを覆す努力もせずに許されているのを見るに忍びなかった。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 3 日)

- c. ダビデの一番上の兄、エリアブの態度と対比しなさい (サムエル記上 17:28, 29)。

「エリアブは、ダビデの一番上の兄であつたが…青年の魂をかき立てている感情をよく承知していた。ベツレヘムの群れの羊飼いとしてみれば、彼はたやすく説明できない大胆不敵、勇気、力を表してきた。そしてサムエルが自分たちの父親の家へ神秘的な訪問をしたこと、彼が静かに出立したことは、彼の訪問の真の目的について兄弟たちの思いに疑いを呼び起こしていた。ダビデが彼らよりも栄誉を受けているのを見ると、彼らの嫉妬が目覚め、ダビデをその誠実さと兄弟のやさしさにふさわしい敬意と愛をもって見なかった。彼らはダビデを単なる青年羊飼いとみなし、今彼がなした質問を、エリアブはペリシテ人の巨人を黙らせようとしないうち自身自身の臆病さに対する批判だと思った。」(同上)

3. ダビデとゴリアテ

- a. わたしたちはダビデが表した信仰を自分自身の経験に、どのように取り込むことができますか (サムエル記上 17:32-37)。

「われわれが特別に危険から救出されるとか、または、新しい予期しない恵みにあずかる場合には、…神の恵みに感謝しよう。」(人類のあけぼの上巻 202)

「反対者に当面したり、人々に奉仕したりするための準備は天の恵みの座で神から受けなければならない。ここで、私たちは、神の恵みを受けて、自己の無力さを自覚するようになるのである。キリストの威厳と栄光が私たちの力である。」(伝道上巻 225)

- b. ダビデは、どのように勝利の秘訣を表しましたか (サムエル記上 17:38-40, 43-51)。

「ゴリアテは自分の武具に信頼した。彼はイスラエルの軍勢を彼の挑戦的で無礼な豪語で脅かしたが、自分の武具を最も人目に引くように見せびらかした。これこそ、彼の力であった。ダビデはその謙遜さと神とその民のための熱心さのうちに、この傲慢な者に応じることを申し出た。サウルは了承し、彼自身の王の武具をダビデの上に乗せた。しかし、彼はそれを着ることに同意しないのであった。彼は王の武具をわきへ置いた。なぜなら、彼はそれを試したことがなかったからである。彼は神を試していて、このお方に信頼し、特別な勝利を得ていた。サウルの武具を身につけるなら、羊の世話をする少年ダビデにすぎないにもかかわらず、それは彼が軍人であるという印象を与えることであろう。彼はサウルの武具にどんな称賛をも与えるつもりはなかった。なぜなら、彼の信頼はイスラエルの主なる神に置かれていたからである。彼は小川からいくつかの石を選び、自分の石投げと杖をもって、ただそれだけを自分の武器とし、イスラエルの神のみ名のうちに出ていき、武装した戦士に向かって行った。

ゴリアテはダビデを軽蔑した。なぜなら、彼の様子は戦いの戦略を教えられていない単なる青年のそれだったからである。…彼は単なる青年が大した武具もなく自分に向かってくるのは、自分の尊厳に対する侮辱だと感じた。彼は自分が彼に何をするかについて豪語した。ダビデは自分が低く見られたからといっていら立つことも、あるいは恐ろしい脅迫に震えることもなく、次のように答えた。『おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。』(教会への証 3 巻 218, 219)

4. 外観をよそにした信仰

- a. 神とその律法へのダビデの深く永続的な信頼から、わたしたちは何を学ぶことができますか (詩篇 19:7-11; 20:5-9)。

「主はわたしたちの真の霊的な状態に目覚めさせたいと思っておられる。このお方はすべての魂が心と思いをご自分の前にへりくだらせることを望んでおられる。詩篇 19 篇と 20 篇に見られる靈感の言葉がわたしに、わたしたちの民のために提示された。これらの尊い約束を受け入れ、警告を信じることは、わたしたちの特権である。

...

夜のうちに、わたしはこれらの言葉を民に向かって繰り返しているようであった。自己を厳密に吟味する必要がある。わたしたちには自己放縱に費やす時間は今ない。もしわたしたちが神とつながっているならば、わたしたちはこのお方のみ前に自分たちの心をへりくだらせ、クリスチャン品性を完成するために非常に熱心になるであろう。わたしたちにはなすべき壮大にして厳粛な働きがある。なぜなら、世界はわたしたちの生きている時代に関して啓発されなければならないからである。そして彼らは率直な証が担われるときに啓発されるようになる。彼らは真剣に自己を吟味するように導かれる。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1145, 1146)

「わたしたちは自分自身の心を吟味し、すべて神のみ旨に従っていないことがわたしたちから切り離されていることを確認すべきである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 5 月 10 日)

- b. イエスはどのように自分の力を通して、ご自分の民が罪と利己心という一見克服しがたい巨人に打ち勝つことができることを、どのように確認しておられますか(マルコ 10:26, 27; 11:22, 23; ペリピ 1:6)。

「キリストを通して、神は、あらゆる罪の傾向を征服し、あらゆる誘惑に抵抗する手段をお与えになった。しかし、自分は信仰が足りないと思って、キリストから離れたままにいる者が多い。こういう魂は、無力と無価値のままに、あわれみ深い救い主のいつくしみにすがりなさい。自分を見ないで、キリストを見なさい。この世におられたときに、病人をいやし悪鬼を追い出されたおかたは、今日も同じに偉大なあがない主であられる。信仰は神のみことばによって生まれる。だから『わたしに来る者を決して拒みはしない』とのキリストの約束をしっかりつかみなさい(ヨハネ 6:37)。『信じます。不信仰なわたしを、あなたがお助けください』と叫んで、イエスの足下に身を投げなさい(マルコ 9:24 英語訳)。そうするかぎり、あなたは決して滅びることはない、決して。」(各時代の希望中巻 202, 203)

5. 最後の働き

- a. 終わりの時代の現代の真理をゆだねられているすべての人は、どのようにイエスから学んで、ゴリアテの精神の犠牲になることを避けなければなりませんか (ユダ 9)。

「人気のない真理は重い十字架を伴うが、これを提示する際に、説教者は一つ一つの言葉が神の望まれるとおりになるよう注意すべきである。彼らの言葉は決して切りつけるべきではない。彼らは真理を謙遜のうちに提示し、魂に対する最も深い愛と彼らの救いのための真剣な願いをもって、真理に切らせなさい。彼らは他の教団の牧師たちを否定したり、議論をけしかけようとしてはならない。…逆らう者、自慢する者、罵る者は真理の反対者から来るはずであり、ゴリアテのようにふるまう。しかし、この精神は、運命づけられた世界に対する最後の警告のメッセージを宣布するために神が送り出された人々のうちに見られるべきではない。」(教会への証 3 巻 218)

- b. どの希望を神は終わりの時代のご自分の小さい残りの民に提供しておられますか (ゼカリヤ 4:10 (上句); ルカ 17:6)。地を明るくするものは何ですか (黙示録 18:1)。

「からし種のたとえば、この最終時代において勝利のうちに輝かしい成就を見るのである。小さな種が木になるのである。最後の警告のメッセージが、『あらゆる国民、部族、国語』に宣べ伝えられ (黙示録 14:6-14)、『その中から御名を負う民を選び出され』る (使徒行伝 15:14)。そして、地は神の栄光によって照らされるのである (黙示録 18:1)。」(キリストの実物教訓 57)

「人間の姿の中にキリストご自身の栄光があらわれることは、天と人間との間を非常に近いものにするのであって、キリストの宿られるすべての魂の中に神の宮の栄光が見られるようになる。そして、内住のキリストの栄光に、人びとは捕えられるのである。」(同上 396)

個人的な復習問題

1. ダビデは自分のたて琴でサウルを落ち着かせながら、どのように育ちましたか。
2. ダビデの態度は、どのように彼の兄弟たちの態度とは違っていましたか。
3. ダビデはなぜサウルの武具を身に着けることを拒んだのですか。
4. わたしたちはどのように今日の比喩的な「巨人」に立ち向かう際、この教訓を適用することができますか。
5. 今日、ダビデの精神とゴリアテの精神の違いを述べなさい。

危機

「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(テモテ第二 3:12)

「魂が暗黒におおわれ、光と指導が必要になったときには、見上げなければならない。暗黒のかなたに光がある。」(人類のあけぼの下巻 336)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 324-338

日曜日

1 月 10 日

1. 迫害に直面する

- a. 何がサウルの心の中でダビデに対する嫉妬の引き金となりましたか (サムエル記上 18:5-9)。なぜサウルの言葉にその行動が続いたのかを説明する原則をあげなさい (サムエル記上 18:11; ヨハネ第一 3:15)。

「サウルの野心は人間から最高の賛辞を受けることであった。そして、この賞賛の歌を聞いた王は、ダビデが人心を獲得し、彼に代わって王になるにちがいないと思い込んだ。サウルは、しつと心をいだいた。そして、彼の魂は、それに毒された。」(人類のあけぼの下巻 325, 326)

- b. なぜ神は、クリスチャンが、いまダビデが経験しているような状況を通ることをお許しになるのですか。また、ダビデはサウルとつながることによって何を学びましたか (テモテ第二 3:12; ペテロ第一 4:12-17)。

「ダビデの宮廷における地位は、彼に国務の知識を与え、将来彼が偉大な王になるよい準備となった。こうして、彼は国民の信任を得たのであった。彼は、サウルに憎まれてさまざまな苦難と困難を経験したが、それによって、彼は神によりすがり、全的に神に信頼するようになった。」(同上 325)

2. 深刻な危険

- a. サウルは、神がダビデを守っておられることがわかったとき、彼を滅ぼすために他にどのような計画を企てましたか(サムエル記 18:12, 13, 17, 20, 21, 25 節)。神の忠実な僕の命を守ったものは何でしたか (14, 30 節)。
- b. どのようにサウルの最悪の性質が再び起こりましたか。また何がラマでのダビデの追跡を阻みましたか (サムエル記上 19:9, 10, 23, 24; 20:1 (上句))。

「[サウル] は、ダビデを殺す機会をこれ以上待つまいと決心した。もしダビデが手のとどくところに来たならば、サウルはどんな結果になろうと、彼を自分の手で殺そうとしていたのである。

しかし、神の天使が途中で彼を迎えて、彼を支配した。神の霊が、力強く彼を捕えた。彼は、預言したり聖歌をうたったりしながら、神に祈りつつ進んでいった。彼は、世界の救済者として来られるメシヤのことを預言した。彼がラマにある預言者の家に来ると、彼の地位のしるしであった上着を脱いだ。そして、彼は神の霊に動かされて、一日一夜、サムエルと彼の弟子たちの前に横たわった。人々は、この不思議な光景を見るために近づいてきた。王の経験したことは、国じゅうに広く伝えられた。こうして、サウルは、彼の治世の終わり近くで、彼もまた預言者の中にいたということが、イスラエルに言い伝えられた。……

ダビデは、王の悔い改めを信じなかった。彼は、王が以前と同様に心を変えろといけなかったので、この機会に逃亡することにした。」(人類のあけぼの下巻 330, 331)

- c. 妬みと嫉妬の死のような性質を述べなさい (箴言 6:34, 35; 27:4)。

「妬みはサタンの品性の最も卑劣な特質の一つである。それは他人の上に非難を投げかけることによって、絶えず自己を持ち上げようとする。妬み深い人は、自分を高めようと考えて、自分の隣人を矮小化する。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 17 日)

「妬みは単なる気質のゆがみではなく、病気であり、すべての機能を狂わせる。…

もし妬み深い人にその罪を自覚させようとするなら、彼はさらに自分の感情の対象に対して苦い思いを持ち、しばしば不治のままになるのである。」(教会への証 5 巻 56)

3. パニックの恐るべき結果

a. ノブに逃れたときのダビデの過ちを述べなさい (サムエル記上 21:1-6)。

「〔ダビデ〕は絶えず見つかることを恐れていた。そして、…自分の窮地にあつて、欺瞞という手段に訴えた。…ダビデは祭司に、自分一人ですすように要求された秘密の仕事をなし遂げるために王からつかわれてきたのだと告げた。彼は祭司に五つのパンを求めた。神の人が持っていたのは聖なるパンの他はなかった。ダビデは成功し、なんであれ、自分の良心のとがめを振り払い、そして自分の飢えを満たすためにパンを手に入れた。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 31 日)

b. ダビデがアヒメレクに対して正直で率直でなかったことは、どのように悲劇的な一連の出来事への引き金となりましたか (サムエル記上 21:7; 22:6-11, 16-19)。

「彼が事実を明らかにしていたならば、アヒメレクは、自分の生命を保つために取るべき手段を知っていたことであろう。」(人類のあけぼの下巻 334)

「ドエグは中傷する者であった。そして、サウルは妬みと憎しみと殺人の精神を持っていたために、それが真実な報告であるようにと願った。牧者の長の部分的で誇張した言葉は神と人の敵が用いるのにちょうど良かった。それはサウルの思いに、王がまったく自制を失い、気が違った者のように振る舞うような光の内に提示された。もし彼が話の全体を聞くことができるまで落ち着いて待ち、自分の理性的な機能を働かせていたならば、その日の行いの恐るべき記録は、どれほど違ったものとなっていたことであろう！

サタンは魂を白熱した怒りの状態へおくことができる時、どれほど狂喜することであろう！一瞥、一つの所作、一つの声音がサタンの矢のように、それを受け入れる準備のできている心を傷つけ毒するために取り上げられ、用いられることができる。もしキリストの御霊がわたしたちを完全に所有し、わたしたちがこのお方の恵みによって変えられているならば、悪を語ったり、偽りの積まれた報告をしたりする気質は存在しない。偽る者、兄弟を訴える者は、大欺瞞者選ばれた代理人である。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1020)

「〔祭司たちを殺すという〕この行為によって、イスラエル全土は恐怖に満ちた。この虐殺を行なったのは、彼らの選んだ王であつた。……契約の箱は彼らのところにあった。しかし、彼らが問うことにしていた祭司たちは、剣に倒れた。次に何が起こるのであろうか。」(人類のあけぼの下巻 338)

4. 恐れて錯乱する

a. パニック状態にあつて、ダビデは何を忘れていましたか（詩篇 23:4）。

「〔ダビデが〕、大変な危急時において、揺るがない信仰の目を持って神を見上げ、そして誇り高い高慢なペリシテ人に立ち向かったのであった。彼は神を信じて、このお方のみ名によって行った。彼は主の敵の軍勢を打ち負かす働きをなして下さる神の力に信頼していた。しかし、彼が狩りたてられ、迫害されたとき、困惑と絶望が彼の目から彼の天父をほとんど隠してしまうばかりであった。彼は自分自身の戦いを戦うままに一人放置されたと考えていたかのようである。彼は混乱し、どこへ向かったら良いかわからなくなった。…

わたしたちは自分の天父を信頼することを学ばなければならない。そして魂が不信という罪に汚されることを許してはならない。わたしたちは自らを救おうとして、自分の魂の守りを忠実な創造主としての神に委ねない。わたしたちはこのお方が自分のために働いて下さることを期待せず、神だけがわたしたちのために取り除くことのおおきになる困難の壁を打ち壊そうと、必死になって自分自身の有限な力で打ちまくる。…人が絶対的に神に寄り頼むとき、その人は自分自身に対して真実になる。そして彼は自分の救いについて神にあつて希望を持ち喜ぶことができる、地上のすべての友が敵になっても。」（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 31 日）

b. わたしたちは、たとえ危険の内にあつても、ダビデが絶望的な逃亡において犯した別の悪からの警告をどのように受け取るべきですか（サムエル記上 21:10-13）。

「神は、どんな危機にあつても、神の民が真実であることを要求されるのである。…

ダビデは、ガテの王アキシのところに逃げた。サウルの領内よりは、イスラエルの敵国の中のほうが安全であると彼は思った。しかし、ダビデは、幾年か前にペリシテ人の勇士を倒した人であることがアキシに伝えられた。そこでイスラエルの敵国に難を避けた者は、一大危機に陥った。ところがダビデは、気が狂ったまねをして、敵を欺き、逃げ出すことができた。

ダビデの第一の誤りは、ノブで神を信頼しなかったことである。第二の誤りは、アキシを欺いたことである。……。しかし、試練に出会ったときに彼の信仰は揺らぎ、人間的弱点を暴露した。彼は、だれを見ても、その人が密偵であるかまたは裏切り者であるかと思った。」（人類のあけぼの下巻 335）

5. 真の信仰…信頼

- a. ダビデはどのように謙遜に、殺された祭司たちの悲劇的な問題において、部分的に自分の罪を認めましたか (サムエル記上 22:20-23)。
- b. わたしたちの主イエス・キリストは、どのように往々にしてわたしたちが神を信頼すべきほどに信頼しないように麻痺させてしまう種類の恐れを譴責なさいますか (マルコ 4:40)。

「神の子らがどこで失敗を犯しても、それは彼らの信仰の欠如が原因である。影が魂を取り囲むとき、わたしたちが光と導きを望むとき、上を見なければならない。そこには闇の向こうに光がある。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 8 月 31 日)

- c. 切実な必要の時代に、すべての神の忠実な子らへ幾世紀を通じてこだましてきた一つの約束をあげなさい (イザヤ 54:10)。

「失望または落胆した魂に働きかけ、気落ちした者を励まし、衰えた者を強め、試練の中にある主のしもべたちに勇気と力を与える神の霊のお働きはなんと尊いことであろう。また、われわれの神は、なんという神であろう。神は、誤った者をやさしく扱い、われわれが逆境または、大きな悲しみに圧倒されているときにも忍耐深くあわれんでくださるのである。」(人類のあけぼの下巻 335)

個人的な復習問題

1. 神はわたしたちが妬みや嫉妬にふけると、なぜそれほどまでにそれを憎まれるのですか。
2. 時にはサウルが平和に見えた後でさえ、なぜダビデは彼を信用できなかったのですか。
3. わたしはどのように、そのような試練の時に、ダビデのように失敗を犯す危険がありますか。
4. わたしたちの命が危険にさらされるときに、主はどのようにわたしたちが事を処すことを望んでおられますか。
5. どのような状況下において、わたしはもっと本当に神を信頼する必要がありますか。

兄弟愛

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ 15:13)

「わたしたちを同胞に、人類に、そして神に結びつける多くのひもがある。そしてこの関係は責任の重さを伴う厳粛なものである。」(わたしたちの高い召し 184)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 330-338

日曜日

1月17日

1. 岩の穴と山の穴に隠れる

- a. ダビデの品性の高尚さと、またその源を明らかにする一つの例を挙げなさい (サムエル記上 22:1, 3, 4; 詩篇 57:2, 3)。

「ダビデの不安は、自分の危険に気がつきながらも、まったく自分自身のためではなかった。彼は自分の父親と母親のことを考えた。そこで、彼は自分が彼らのために別の避難所を探さなければならないとの結論に至った。…この歴史から、わたしたちはみな子の愛という尊い教訓を学ぶことができる。…

〔ダビデの家族〕は、ダビデが孤独な岩穴で逃亡者となっていたが、嫉妬で怒り狂った王にさらされるよりは、預言者サムエルがイスラエルの王となるよう油を注いだ者と一緒にいる方が安全だと判断した。…

アドラムのほら穴の中で、家族はついに同情と愛情のうちに一致した。エッサイの息子は『見よ、兄弟が和合して共にいるのはいかに美しく楽しいことであろう』（詩篇 133:1）と讃美したときに、声と豎琴をもって旋律をかなでることができた。彼は自分の兄弟たちから疑いと不信の苦さを味わってきた。そして不和に取って代わった調和は、追放者の心に喜びと慰めをもたらした。ここで、ダビデは詩篇 57 篇を作詞した。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 9 月 7 日)

「サウル王のねたみのために、追われて荒野に逃げたダビデは、人間の助けから切り離されて、ますます深く神により頼むことを学んだ。」(教育 171)。

2. 試練においてチームを組む

- a. 他にだれがほら穴にいるダビデを追って逃げましたか。またどのようにしてこれは油注がれた逃亡者にとって、教育的な経験となりましたか（サムエル記上 22:2）。

「その後間もなく、王の苛酷な要求から逃げようとする人々が、ダビデの一隊に加わった。多くの者は、イスラエルの王に対する信頼を失っていた。彼らは、すでに王が神の霊に導かれていないのを見ることができたからである。〔サムエル記上 22:2 引用〕。ここでダビデは、彼自身の小王国を持った。そして、それは、秩序整然としたものであった。…

神は、彼が正しく恵み深い王であるとともに、賢明な將軍になるための訓練を与えておられた。」（人類のあけぼの下巻 337）

「荒野の生活は不安で落ちつきがなく、たえず危険に迫られ、幾度となく逃げ出さなければならず、しかもそのダビデのもとに集まって来る…性格の人々…のために、彼にとってきびしい自己鍛練がますます必要であった。これらの経験によって人を取り扱う能力やしいたげられる者への同情心や、不正への憎しみがダビデの中にめぎめて成長した。」（教育 171）

- b. キリストに従う多くの忠実な人々が主の再臨の時までに通ることになる苦境を、またそのただ中に輝く希望を述べなさい（ゼパニヤ 3:12; ヘブル 11:37-40）。

「屋根裏のへや、あばらや、牢獄、処刑台、山々、荒野、地のほら穴、海の洞窟（どうくつ）の中から、キリストは、ご自分の子供たちをお集めになる。地上にあって、彼らは貧しくなやみ苦しんだ。また、サタンの偽りの要求に従わなかったために、恥辱をこうむって墓に下っていった者が、幾百万とあった。こうして、神の子供たちは、地上の裁判官によつては極悪の犯罪人であると宣告された。しかし、『神はみずから、さばきぬし』になられるときが近い（詩篇 50:6）。そのときに地上の判決はくつがえされる。『その民のはずかしめを全地の上から除かれる』（イザヤ書 25:8）。……

神の子供たちは、どのような苦難にあったにせよ、どのような損失を受けたにせよ、またどのような迫害をこうむったにせよ、あるいはまた、この世の生命を失ったにしても、そのとき、必ず十分な報いを受けるのである。〔黙示録 22:4 引用〕。」（キリストの実物教訓 161）

3. 勇敢な王子

- a. 忠実なヨナタンとはだれでしたか。またイスラエルにおいて、彼はどの資質のためにすでに認められていましたか (サムエル記上 13:5; 14:1, 6, 13-15, 20, 23)。

「サウルの息子ヨナタンのうちに、主は純潔な高潔の人を見た。すなわち、主が近く引き寄せ、その心を動かすことのできる者であった。」(神の息子むすめたち 208)

「主をおそれた王子のヨナタンが、イスラエルを救う器に選ばれた。彼は神からの感動を受けて、武器をとる若者に向かって、敵の陣地にひそかに乗り込もうと言った。『主がわれわれのために何か行われるであろう。多くの人をもって救うのも、少ない人をもって救うのも、主にとっては、なんの妨げもないからである』…

天使たちが、ヨナタンと武器をとる若者を守護し、彼らと共に戦ったので、ペリシテ人は、彼らの前に敗れ去った。騎兵と戦車の大军が接近するかのように、地は、震え動いた。ヨナタンは、神の助けの証拠を認めた。そして、ペリシテ人でさえ、神がイスラエルを救済するために働かれたことを知った。ペリシテ人は、野にいる者も陣営にいる者も、全軍が大きな恐怖に襲われ、大混乱を起こし、味方を敵軍とまちがえて同志打ちを始めた。」(人類のあけぼの下巻 290, 292)。

- b. ヨナタンが忠実で勇敢だけでなく、民に愛されており、ひいては自分の父親の王座を継ぐ生まれながらの相続者として強力な適性のあることが、何によって明らかにになりましたか (サムエル記上 14:24, 27, 43-45)。

「サウルは、勝利の栄光を自分に帰することはできなかった。しかし、誓いの神聖さを保とうとする彼の熱意によって誉れを得ようと望んだ。彼は、自分のむすこを犠牲にしてでも、王の権威を保つべきであるということを国民に印象づけようとした。……ところが、彼の命令の違反者があれば、その命令が不合理で、しかも、知らずに犯したものであっても、王であり父であるサウルは、王子の死を宣告したのである。

人々は、その宣告の執行を拒否した。

〔サムエル記上 14:45 引用〕。高慢な王は、この満場一致の裁決を無視することはできなかった。そして、ヨナタンは救われた。」(人類のあけぼの下巻 293, 294)

4. 無我の忠誠

- a. ヨナタンがダビデに示した感嘆の深さ、そしてこの友情における神のご目的を説明しなさい (サムエル記上 18:1-4)。

「特にヨナタンの心はダビデの心と結びついていた。そして彼らの間にはもっとも神聖なきずなが築かれていて、サウルとヨナタンが死ぬまで結びついたままであった。これは主がなされたことであった。こうしてサウルがダビデを殺そうとしたときに、ヨナタンがダビデの命を守る手段となることができるためであった。」(霊的賜物 4A 巻 79)

- b. ダビデのために、ヨナタンはどのようにとりなしてきましたか (サムエル記上 19:1-7)。

どのように、ヨナタンはそのとき自分自身の命を危険にさらしましたか (サムエル記上 20:4, 13-17, 27-34)。ヨナタンとダビデがサウルの心の頑なさを共に悲しみ、とてもつらかった時を述べなさい (サムエル記上 19:41, 42)。

「生まれながらにして王位の継承者であったヨナタンは、神のご命令によって自分が退けられたことを知りながら、競争者に対して友としての愛情と忠誠を示し、自ら生命の危険を冒してまでダビデの生命をかばい、……ヨナタンの名は天にとどめられるとともに、地にあつては、無我の愛の存在と力を実証している。」(教育 177)

- c. 後に、何がジフの荒野において、ダビデに慰めをもたらしましたか。またどのようにこれが彼の心に靈感を与えましたか (サムエル記上 23:14-18; 詩篇 11:1-5)。

「このころ、ダビデの行く手には光明がほとんどなかったが、彼の隠れ家を知ったヨナタンが、思いがけなく訪れて来て、彼を喜ばせた。……

ダビデは、ヨナタンの訪問を受けたあとで、賛美の歌をうたって自分を励ました。彼はたて琴の調べに合わせて歌った。〔詩篇 11:1-5 引用〕。」(人類のあけぼの下巻 339, 340)

5. 利己心が制される

- a. わたしたちは家族として真の聖書的な友情について、また真のクリスチャンの愛の効果について、何を悟る必要がありますか (ヨハネ 13:34, 35; 15:13)。

「わたしたちの愛はしばしば利己的である。なぜなら、それを所定の限度までに制限するからである。わたしたちがキリストと近く一致し、交わりのうちに入るならば、わたしたちの愛と同情と慈善の行いは、働かせることによってより深いところへ届き、広がり、強められる。キリストの信徒たちの愛と関心は世界にまで広くなければならない。ただ『わたしとわたしの家族』のために生きている人々は、天を失う。神はあなたに家族として愛を培い、自分自身のためにはそれほど敏感にならず、他の人々の悲しみや試練にはもっと敏感になるようにと召しておられる。」(教会への証 3巻 530)

- b. 本物の愛の重要な実をいくつか挙げなさい (コリント第一 13:4, 5)。

「キリストのみたまを吹きこまれる者はみなキリストが愛されたように愛するのである。キリストを動かした原則がお互いの間における彼らの態度の動機となるのである。…

人が強制や利己心によってではなく、愛によってむすばれるとき、彼らは人間の力にまざる力が働いていることを示すのである。この一致があるとき、それは神のみかたちが人のうちに回復され、新しい生命の原則がうえつけられた証拠である。それはまた超自然的な悪の力に抵抗するのに神の性質には力があるということ、神の恵みは生れつきの心に固有の利己心を征服するということを示している。この愛が教会内であらわされると、かならずサタンの怒りがひき起こされる。」(各時代の希望下巻 167, 168)

個人的な復習問題

1. なぜ神はわたしをダビデに似た経験を通らせられるかもしれませんか。
2. いつ殺風景な暗いほら穴が霊的な意味において光に満たされましたか。
3. なぜヨナタンはペリシテ人を打ち破ることができると確信していましたか。
4. 神はヨナタンがほら穴にいたダビデを訪問したように、わたしにだれを訪問させたいと思われるかもしれませんか。
5. どのような種類のを一そしてだれに対して一培うように、神はわたしに呼びかけておられますか。

品性を発達させる

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

「自我はわたしたちの最も恐るべき敵であって、どういう形の悪も、聖霊に制せられていない人間の情欲に比べると、それほど有害な影響を品性に及ぼさないのである。また勝つことができた他のどんな勝利に比べても、自己に打ち勝つ勝利ほど尊いものはない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 469)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 340-351

日曜日

1月24日

1. 神の霊と調和が取れている

- a. 神はケイラとマオンで、どのようにダビデを助けられましたか。また、この困難な時に、ダビデの祈りの生涯について、何が注目に値しますか(サムエル記上 23:1, 2, 5, 10-14, 26-28)。
- b. サウルがエンゲデのほら穴に入ったとき、何が起こりましたか(サムエル記上 29 章; 24:1-6)。

「サウルが、三千の軍勢を率いて迫ってくるのに対して、ダビデはわずか六百しか率いていなかった。ダビデと彼の部下たちは、人里離れたほら穴の中で、どうしたらよいか、神の指示を待っていた。するとサウルは、山道を進んでいく途中で、ただひとり横道にそれて、ダビデと従者たちが隠れていたほら穴にはいつてきた。これを見たダビデの従者たちは、ダビデにサウルを殺すように勧めた。彼らは、王が彼らの手中に陥ったのは、神ご自身が敵を彼らの手に渡して、殺させるようにされたものと解釈した。ダビデもそう考えるように試みられた。しかし、良心の声が彼に語って、言った。『主が油を注がれた者に手をのべるのはよくない。』

ダビデの従者たちは、サウルをそのままにしておくことを承知しなかった…〔サムエル記上 24:4 引用〕。しかし、ダビデはあとで、王の上着を切ったことさえ心に責められた。』(人類のあけぼの下巻 341, 342)

2. 善をもって悪に報いる

- a. サウルに対するダビデの憐れみ深い抑制の行為から、わたしたちは何を学ぶことができますか (箴言 16:32; ローマ 12:19-21)。

「サウルに対するダビデの行動の中には教訓がある。神の命令によってサウルはイスラエルの王として油をそそがれた。しかし、不従順のためにその国は彼の手から取りあげられると神が言われたが、サウルに対するダビデの行為はなんと柔和で礼儀正しく忍耐にみちたものであったろう。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 468)

「ダビデが取った一連の行動は、彼には自分が従う統治者がいることを表した。彼は自分の生来の感情が自分に対して勝利することを許すことができなかった。なぜなら、彼は自分自身の精神を治める者は城を攻め取る者よりも偉大であることを知っていたからである。もし彼が人間の感情に導かれ、支配されてきたならば、彼は自分の敵を殺し、イスラエルの統治権を自分自身に得るために、主が彼を自分の力の下におかれたのだと理由づけたことであろう。サウルの思いは、彼の権威が尊重されないような状態にあり、民は無宗教で不道徳になりつつあった。しかし、サウルが神から選ばれたイスラエルの王であるという事実が彼を安全に守った。なぜなら、ダビデは良心的に神に仕えており、彼は主に油注がれた者にいかなる害も加えるつもりはなかったからである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1021)

- b. ダビデがどのようにサウルの心に訴えたのかを描写しなさい (サムエル記上 24:7-15)。
- c. ダビデの憐れみに対するサウルの一見あたたかく見える反応に関するダビデの用心から、わたしたちは何を学ぶべきですか (サムエル記上 24:16-22; マタイ 10:16)。

「サウルは、ダビデの言葉を聞いて非常に恥じ入り、その真実なことを認めないわけにできなかった。彼は、自分がつけねらっていた者の手中に完全に陥っていたことを認めて、深く心を動かされた。…」

ダビデは、サウルのこれまでのことを知っていたので、王の確証の言葉を信頼することはできなかった。また彼の悔い改めも長く続くとは思わなかった。こうして、サウルは家に帰り、ダビデは山の要害に残っていた。

サタンの力に服した人々が、神のしもべたちに対していさぐ敵意が、時には、和解と好意の感情に変わることがある。しかし、この変化は長続きしないのが常である。」(人類のあけぼの下巻 344)

3. さらなる失望

- a. イスラエルが導きと安全をもっとも必要としていると見えるときに、何が起こりましたか (サムエル記上 25:1 (上句))。

「国家が内紛に苦しみ、サムエルの沈着で敬虔な勧告が最も必要であると思われたときに、神は、彼の老僕に休息をお与えになった。人々は、彼の休息の場をながめて、自分たちが彼を支配者として受け入れなかった愚かさを思い出して、痛く後悔した。彼は、天と密接な交わりを保って全イスラエルを主のみ座に結びつけるように思われたのであった。彼らに神を愛し、服従することを教えたのは彼であった。しかし、彼は、もう死んでしまったので、人々は、サタンと結束して彼らを神から引き離そうとする王のなすがままになってしまったと感じたのである。」(人類のあけぼの下巻 345, 346)

「人々は、サウルの生涯とサムエルの生涯とを比較してみたときに、彼らが回りの国々と異なっているはいけなと言って、王を要求したことがどんなまちがいであったかを知った。…

人々は、神に見捨てられたように感じた。王は、狂人も同様であった。正義は曲げられ、秩序は混乱に変わった。」(同上 345)

- b. ダビデはサムエルの死に続いて、どこへ逃げましたか。またそこで彼の心には何がありましたか (1 節 (下句) ; 詩篇 120:1, 2; 121:2, 7, 8)。

「サウルが、サムエルの死を悲しんでいるのをよい機会に、ダビデは、もっと安全な場所を捜し求めた。こうして、彼は、バランの荒野にのがれた。彼は、ここで詩篇 120 篇と 121 篇を作った。」(同上 346)

- c. ダビデの親切な精神はバランでどのように試されましたか (サムエル記上 25:4-12)。

「ダビデと彼の部下たちは、ナバルの羊飼いと群れにとっては、防壁のようなものであった。ところで、この金持ちは、そのように尊い働きをした者の必要を満たすために、豊かな持ち物の中から与えることを求められた。ダビデと部下たちは、自分かつてに羊や牛を取ることができたのであるが、そうはしなかった。彼らは、誠実にふるまった。しかし、彼らの親切は、ナバルにはむだであった。」(同上 348)

4. 和らげる感化力

- a. ナバルの忘恩に対するダビデの反応を述べなさい (サムエル記上 25:13, 21, 22)。

「〔ダビデ〕は、部下の者に戦いの用意をすることを命じた。ダビデは、当然彼が受けるべきであるものを拒んだうえに、彼に侮辱を加えた男を罰する決心をした。この衝動的行動は、ダビデよりはサウルの性質にふさわしいものであったが、エッサイの子は、まだ苦難の学校で忍耐を学ばなければならなかった。」(人類のあけぼの下巻 348)

- b. ナバルの妻アビガイルはどのように反応しましたか (サムエル記上 25:14-20)。

- c. ダビデに会ったときのアビガイルから、何を学ぶことができますか (サムエル記上 25:23-31)。

「アビガイルの敬神の念は、花のかおりのように、顔や言葉や行動に、無意識のうちにただよっていた。神のみ子の霊が、彼女の心に宿っていた。彼女の言葉は、恵みによって味つけられ、好意と平和に満ち、天の感化を及ぼしていた。ダビデは、われに返り、自分の早まった考えがどんな結果をもたらすものであったかを思って戦慄した。『平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう』(マタイ 5:9)。いらだった感情を和らげ、早まった衝動をとどめ、冷静さと正しい知恵の言葉によって、大きな悪をしずめようとしたこのイスラエルの女のような人々が、もっと多くあればどんなによいことであろう。

献身したクリスチヤンの生活は、常に光と慰安と平安を放っている。それは、純潔、気転、単純、有用性などの特性を持っている。それは、感化力を清める無私の愛に支配されている。それは、キリストに満ち満ちていてその人が行くところは、どこにでも、光の足跡を残すのである。アビガイルは、賢明な譴責者であり、勧告者であった。ダビデの怒りは、彼女の感化と道理にかなった話しぶりによっておさまった。彼は、自分が賢明でない行動を取り、自制を失ったことを自覚した。

彼は、へりくだって譴責を受け入れた。彼みずから、それについて次のように言っている。『正しい者にいつくしみをもってわたしを打たせ、わたしを責めさせてください』(詩篇 141:5)。(同上 350, 351)

5. 感謝して譴責を受け入れる

- a. ダビデがどれほどアビガイルの和らげる精神に感謝したかその深さと、またその中にあるわたしたちのための教訓を説明しなさい (サムエル記上 25:32-35)。

「彼女が彼に正しい勧告を与えたために、彼は感謝して祝福した。譴責される場合に、腹を立てずに譴責を受け入れるならば、賞賛に値すると考えている人が多い。しかし、自分を誤った道から救おうとした人に、感謝と祝福の気持ちを持ってその譴責を受け入れる人はなんと少ないことであろう。」(人類のあけぼの下巻 351)

- b. これらすべての経験において、ダビデはどのように成長しましたか (ローマ 5:3-5)。

「ダビデはナバルとその家族は滅びなければならぬと誓って言った。しかし、今彼はそのような誓いをなすことが間違いなばかりではなく、その誓いを守ることが悪いことを知った。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 10 月 26 日)

- c. アビガイルの感化力は美しい結果をもたらしたにもかかわらず、ダビデはなぜ正しくない次の段階に進みましたか。それはなぜでしたか (サムエル記上 25:38-44)。

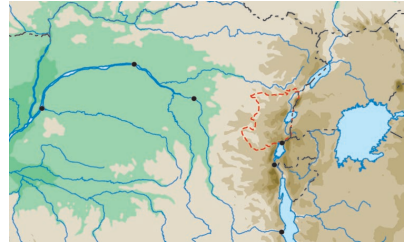
「ダビデはその後、アビガイルと結婚した。ダビデは、すでにひとりの妻の夫であったが、当時の国々の風習が彼の判断を誤らせ、こうした行動を取らせたのである。偉大で善良な人々でさえ、世の風習に従って道をふみ誤った。ダビデは、多くの妻をめとったための苦しさを、一生を通じて痛感した。」(人類のあけぼの下巻 351, 352)

個人的な復習問題

1. どのように神はダビデを守られたように、わたしを数多く守ってくれましたか。
2. 何がサウルを害することからダビデを引き止めましたか。また、サウルはどのように反応しましたか。
3. セブンスデー・アドベンチストにおける霊的な危機の時に、どのようにまた時期尚早な預言者の死が起こりましたか。
4. ナバルのような人を扱わなければならなくなった状況から、わたしは何を学ぶべきですか。
5. 次回何かについて譴責を受けたとき、わたしは何を覚えているべきですか。

第一安息日献金 コンゴ民主共和国の北キブ州のために

北キブ州はコンゴ民主共和国にあり、中央アフリカに位置します。コンゴ共和国の東端にあり、ルワンダ共和国とウガンダに面しています。そのため、SDARM ルワンダ・ユニオン・ミッションと関連しています。



2006 年に、ルワンダからの兄弟たちが北キブに来て、パンフレットを配布し、聖書研究をしました。素晴らしい結果となりました。

一年後、156 人の魂のグループが喜んでバプテスマを受け、教会に連なりました。現在、750 名のバプテスマを受けた教会員がいます。働きはこの地方で着実に成長し続けています。

悲しいことに、教会につらなれた人々の中には他の教派からの教師 14 人がいて、彼らは自分たちの信仰のためにすでに教会から除名されており、自動的に失業しました。彼らは家にいて、ようやく自分の家族を養うだけのものを植えて生き延びています。わたしたちの子供たちは安息日問題のために、学校へ出席することができず、青年たちの 80% が影響を受けています。

兄弟たちはなんとか生き延びることができるかもしれませんが、この地方で続いている戦争のために、彼らは自分たちの家庭を同じ場所に長く保つことができません。種まきの季節になっても、兄弟たちは兵卒たちの一隊が来て地に育ったものを全部持ち去るときに逃げてきました。

このために、わたしたちは共に農業をしたり、小学校や礼拝堂を建設する兄弟たちのために 4 ヘクタールの土地を購入しました。神のみ摂理により、すでに神の諸原則を高く掲げつつ、教育を得ようとする真剣な教師や生徒たちがいます。「わたしたちの子供たちのための教育と訓練のために学校を設立し、青年たちにこれらの学校に出席するよう強く勧めるように」命じられています。「わたしたちの施設には、神を恐れ、その戒めを守る教師たちがいなければならない」（原稿リリース 4 巻 109）。これが世界中の兄弟姉妹がた、友人がたに、親切な助けをお願いする理由です。わたしたちは神が皆さんの心に印象づけて下さり、この事業のための献金が増えるようにとお祈りします。主が栄光を受けられ、救いのメッセージがすべての部族、民、そして言語に伝えられますように。

この建設事業へ向けた皆さんの惜しみない貢献にあらかじめお礼申し上げます。
アフリカの北部から皆さんの兄弟より

ダビデとサウル

「主はわたしの光、わたしの救だ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。」(詩篇 27:1)

「神に忠実な者たちは、人間の権力やサタンの敵意を恐れるにおよばない。」(各時代の希望中巻 90)

推奨文献： ミニストリー・オブ・ヒーリング 468-479

日曜日

1月31日

1. ジフの荒野において

- a. 自分を利用する人に対するダビデの態度を述べなさい(サムエル記上 26:2, 7-16)。

「サウルが繰り返し〔ダビデの〕力のうちにおかれ、ダビデの従者がサウルを殺すことができたときに、ダビデは自分自身の命について絶えず恐れ、サウルによって獣のように追跡されていたにもかかわらず、彼らにサウルの命を奪うことを許さなかった。」(霊的賜物 4A 巻 91)

- b. なぜサウルは、この期に及んでも、それほど危険だったのですか(サムエル記上 26:17-21)。

「サタンの力に服した人々が、神のしもべたちに対していづく敵意が、時には、和解と好意の感情に変わることがある。しかし、この変化は長続きしないのが常である。悪い心を持った人々が、主のしもべたちに対して、悪いことを言ったり行ったりしたあとで、自分たちの誤りを深く悟ることがある。主の聖霊が彼らの心に働いた結果、彼らは、神と、彼らが敵対して戦った人々の前にへりくだり、彼らに対する行動を変更することがある。しかし、彼らが再び悪魔のささやきに耳を傾けると、以前の疑惑と敵意が再び頭をもたげ、悔い改めて、一時捨てていた同じ活動を再開する。彼らは、自分たちが平身低頭して罪を告白したその同じ人々を、再び激しく責め非難してのしるのである。彼らは、さらに大きな光に対して罪を犯したために、サタンはこうした行動後の彼らを以前よりも大いなる力で活用することができる。」(人類のあけぼの下巻 344, 345)

2. 妬みの悪

- a. どの程度まで、ダビデの憐れみに対するサウルの反応は信用できるものでしたか。それはなぜですか (サムエル記上 26:23-25; 27:1)。

「ダビデが王の生命を尊重したこの第二のできごとは、サウルの心にさらに深い印象を与え、彼に、もっとけんそんになって、自分のあやまちを認めさせるに至った。彼は、こうした慈悲深い行為に驚き、圧倒された。サウルは、ダビデと別れるときに言った。『わが子ダビデよ、あなたはほむべきかな。あなたは多くの事をおこなって、それをなし遂げるであろう』(サムエル記上 26:25)。しかし、エッサイのむすこは、王がこうした精神状態を長く持ち続けることを期待できなかった。」(人類のあけぼの下巻 354)

「[サウル] は、ダビデの品性に不利なものを何か聞き出そうと、すべての偽りの証言を聞いた。かつてイスラエルの王座のために油を注がれた者への増し加わる妬みと憎しみを表す口実を見つけることを願ってのことであった。どれほどダビデのかつての品性と習慣に矛盾していても、すべての噂を信じた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・コウト・コメント] 2 巻 1019)

- b. 今日どのように、サウルの生涯を損なった妬みが、多くの人々において不幸の一般的な原因となっているかを説明しなさい (箴言 14:30 (下句); 27:4)。

「サウルを悲惨に陥れ、彼の王国の国民のひとりの生命を危険にさらしたのは、ねたみであった。人の心のこの邪悪な特質が、この世界でなんと数多くの不幸をもたらしたことであろう。……ねたみは、誇りから生じる。もし心にねたみをいだけば、それは憎悪となり、ついには、ふくしゅう、殺人を犯させることになる。なんの害も加えなかったダビデに対する激しい怒りをサウルにいだかせて、サタンは自分自身の本性を暴露したのである。」(人類のあけぼの下巻 327)

「妬みと嫉妬は互いに混じり合ってその働きをする双子の姉妹のようである。妬みは他人のもっている何か良いものを望むように導き、彼にそれを引き倒すためには自分にできるあらゆる手段を用いて、自分がその立場に立ちたいと願う人の品性と評判を傷つけるようせきたてる。偽り、うわさ、中傷的な報告がめぐり、ねたまれた人を人々の前に好ましくない光におくのに用いられるものは何でも用いられる。嫉妬は人が優位性や地位を自分から取ろうとしていると疑うように導く。サウルは妬みと嫉妬の両方を持っていた。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 11 月 2 日)

3. 下り坂を疾走する

a. 妬みの他に、避けるべきサウルの別の特質をあげなさい (ヨハネ 12:43)。

「サウルの性格の一大欠陥は、賞賛を愛する心であった。この特質が、彼の行動と思想を支配していた。何事においても、賞賛と自己賞揚を欲する気持ちがあらわれていた。彼の善悪の標準は、人々の賞賛という低い標準であった。まず第一に神を喜ばせようとせず、人間を喜ばせるために生活する人は安全ではない。」(人類のあけぼの下巻 325, 326)

b. サウルの悲劇的な経験のどの結末から、すべての神を恐れる魂が警告を受けるべきですか (箴言 26:24-27)。

「王が戦っていた相手は人間ダビデ、すなわち彼に何の害も及ぼさなかった人ではなかった。彼は天の王に対して戦っていたのである。なぜなら、サタンがエホバによって統治されていない意志を支配することが許されるとき、彼はそれを自分の意志に従って導き、ついにはこうして自分の手中にある人が自分の計画を実行するのに効果的な代理人とならせるからである。神のご目的に対する罪の大創始者の敵意は非常に激しく、彼の悪のための力は非常に恐ろしいため、人が神からのつながりを断つとき、サタンは彼らを感じ、彼らの思いはますます従うようになり、ついには神への恐れと人への敬意を捨てて、大胆かつ公然たる神と神の民の敵となるのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1019)

c. サウルの抱いた苦々しさはどのように自分自身に反して働き、また国家全体に影響を及ぼしましたか (詩篇 52:2-5; イザヤ 3:12 (下句))。

「サウルは絶望的でいわれのないダビデの迫害によって、自分の王国の臣民になんという例を残したことであろう! 将来の世代のために、歴史上のページに何という記録を残しつつあったことであろう! 彼は自分の王国の力を余すことなく自分自身の憎しみという水路を通して、無実な人を追跡するために傾けようとした。これはイスラエルに対して不道德の感化を及ぼした。」(同上)

4. 根を明らかにする

a. 妬みの真の源は何ですか (ルカ 4:5-8; マタイ 27:17, 18, 29-31)。

「キリストへの裏切り、裁判、十字架は、みな墮落した敵によって計画された。彼の憎しみは神の御子の死において実行に移され、サタンは、その悪魔的な品性が罪によって墮落していかなかったすべての知的被造物に対して明らかにされる場所へおかれた。

聖天使たちは自分たちのうちに数えられていた者がこれほど残酷なことができるところまで落ちたことをみて恐怖に打たれた。」(預言の霊 3 巻 183)

b. 今日、わたしたちに対するはっきりとした敵の戦略を述べなさい (ヤコブ 3:14-16)。

「思いを誘惑するのはサタンの働きである。彼は自分のずる賢い提案をほのめかし、疑い、疑問、不信、そして責任の下に立ち、自分の働きにおいて神のみ思いを実行に移そうとしている人の言葉や行いに対する不信感をかきたてる。神の選ばれた僕たちの上やまわりに問題、困惑、反対を注ぎ、こうして彼らをその働きにおいて妨げ、できることなら失望させるのが、サタンの特別な目的である。嫉妬、争い、邪推は、特別な働きのために任命された神の僕が払おうとするごく最上の努力に逆らう。

サタンの計画は代理人を通して働くことにより、彼らを義務の持ち場から追い出すことである。彼が不信や疑いをかきたてることができるすべての人を、サタンは自分の器として用いる。…人の性質の中には、神の御霊の直接的な感化の下にいないとき、妬み、嫉妬、そして残酷な不信への気質がある。それらは、もし征服しないなら、他の人々をひそかに傷つけ、引き下ろし、その一方で利己的な精神が自らを彼らの破滅の上に築き上げようとするのである。」(教会への証 3 巻 343)

「危険な時がわたしたちに迫っている。世においては、破滅と暴力が増し加わっている。教会において、人の力が優勢な立場を得つつある。信任の地位を占めるために選ばれてきた人々は、支配するのが自分たちの権限だと考える。

主がご自分の働きにおいて重要な地位に召しておられる人々は、神への謙遜な依存を培うべきである。彼らはあまりに権威をいだこうと求めるべきではない。なぜなら、神は統治の働きをするようにと彼らを召されたのではなく、自分たちの同胞仲間と計画し、相談するために召されたからである。すべての働き人は一様に、神のご要求と教えに素直に従う者であるべきである。」(同上 9 巻 270)

5. 嵐の中における希望

- a. サウルとは対照的に、わたしたちはどのように荒野におけるダビデの態度から、彼が最も落胆した時でさえ、鼓舞されることができますか（詩篇 27:1-3; 59:1-3, 17）。

「ダビデは安全のために逃げていかなければならなかった荒野で詩篇の多くを作詞した。…ダビデがこうして厳しい試練と困難を経ている間に、彼はゆるがない神への信頼を表した。そして特に自分の危険や救出を数えて、自分の憐れみ深い保護者であられる神へ讃美と栄光を帰す自分の歌を作詞したときに、特に神の御霊を吹き込まれた。これらの詩篇の中には熱意、献身、そして聖潔の精神が見られる。」（預言の霊 1 巻 386, 387）

- b. どの希望がほら穴にいるダビデの心を励ましたか。またどのようにこの希望はわたしたちの生活においてもまた反映することができますか（詩篇 142:1-7; 31:23, 24）。

「もし天へ向かう旅路の全行程が心地よいものでなかったとしても、驚く必要はない。…日々に出て行き、次のダビデの祈りを表明しなさい、『わたしの歩みをあなたの道に堅く立ち、わたしの足はすべることがな』いようにしてください、と。人生のすべての道は危険に囲まれているが、もし『わたしに従ってきなさい』と言われるみ声のお方に信頼し、主人なるお方の導く道へ従うならば安全である。」（SDA パブル・コメント [E・G・コト・コメント] 3 巻 1143）

個人的な復習問題

1. わたしはどのようにして自分を憎む人々に対してダビデのような精神を培うことができますか。
2. 嫉妬は妬みとどのように違いますか。またなぜわたしはいずれも避けるべきなのですか。
3. 何がサウルを駆り立て、自分のライバルを滅ぼそうとの決意へ向かわせましたか。
4. サタンが、どのように今日神の民に対する武器として、妬みを用いているかを述べなさい。
5. ほら穴の中でちょうど神がダビデのためになされたように、どのようにしばしばわたしを慰めて下さいましたか。

妥協における危険

「わたしは神に信頼するゆえ、恐れることはありません。人はわたしに何をなし得ましようか。」(詩篇 56:11)

「魂が揺るぎない信頼をもって贖罪の徳と力に安んじている間は、原則に対して岩のように堅く立つ。そしてすべてのサタンと彼の使の力はその誠実さを揺さぶることはできないのである。」(教会への証 4 巻 357, 358)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 354-357 377-386

日曜日

2月7日

1. ガテにおけるアキシ

a. なぜダビデがサウルの圧力から逃れようと選んだ道が、神のみ旨に反していたのですか(サムエル記上 27:1-4)。

「ダビデは、神の勧告を仰がず、サウルが自分を殺すものと思い込んでしまった。サウルは、ダビデを殺そうとたくらんで追跡していても、主は、ダビデに王国を確保させようとしておられたのである。人間の目には、神秘に思えても、神はそこご計画を完成なさる。人間には、神の方法は不可解である。そして、その外側を見て、神が彼らに起こることを許される困難や試練を、ただ彼らを苦しめ、滅ぼすものであると解釈する。こうして、ダビデは、外側をながめて、神の約束を見なかった。彼は、果たして自分が王位につけるかどうかを疑った。長い試練が、彼の信仰を弱らせ、忍耐力を消耗させた。

主は、イスラエルの宿敵ペリシテ人のところに、ダビデを保護するために送られたのではない。ペリシテ人は最後まで彼にとって恨み重なる敵の一つになるのであったにもかかわらず、彼は、困ったときに彼らに助けを求めて行った。……神は、神の旗じるしをユダの国に立てるように、彼を任命されたのであった。彼が、神からの命令を仰がずに、自分の持ち場を捨てたのは、信仰に欠けていたためであった。」(人類のあけぼの下巻 354, 355)

2. 間違った場所／間違った言葉

- a. ダビデはアキシにどのように迎えられましたか。またどのような方法で、わたしたちもまたダビデと同じ間違いを犯す危険のうちにあるかもしれませんか (サムエル記上 27:5-7)。

「ダビデの不信によって、神のみ栄えが汚された。ペリシテ人は、サウルと彼の軍勢を恐れる以上に、ダビデを恐れていた。ダビデは、ペリシテ人に身を寄せて保護を受けたために、彼の自国民の弱点を彼らに暴露した。こうして彼は、この残酷な敵が、イスラエルを圧迫することを助けたのである。ダビデは、神の民を守護するために立ち上がるように油を注がれていた。主は、主のしもべたちが、神の民の弱点を暴露したり、その幸福に無関心をよそおったりして、悪人たちを勇気づけることを望まれない。さらに、彼の兄弟たちは、彼が異教徒の神々を礼拝するために、彼らのところへ行行ったという印象を受けた。彼のこうした行動は、人々に彼の動機を誤解させる原因となり、多くの者は、彼に対して偏見をいだいた。彼は、サタンが彼にさせようと願っていたであろうそのことをさせられた。なぜなら、彼がペリシテ人の中に隠れ家を求めたことによって、神と神の民との敵を非常に喜ばせたからである。ダビデは、神の礼拝を捨てたり、神のわざに対する献身を取り消したりしたのではなかった。しかし、彼は、自分の身の安全を求めて神に信頼しなかった。こうして、彼は、神がしもべたちに要求される公正で忠実な品性を傷つけたのである。

ダビデは、ペリシテ人の王に暖かく迎えられた。この暖かい歓迎は、王が彼を尊敬していたこととともに、ヘブル人が自分に保護を求めてきたという虚栄心の満足によるものでもあった。」(人類のあけぼの下巻 355, 356)

- b. ダビデの人を惑わす言葉から、どのような悪い結果が生じましたか (サムエル記上 27:8-12)。

「この孤立した〔チクラグの〕町に住んでいた間に、ダビデは、ゲシュル人、ゲセル人、アマレク人などと戦い、彼らを全滅させたので、そのことをガテに知らせる者はなかった。彼が戦いから帰ってくると、自国民であるユダの人々と戦っていたかのように、アキシには思わせていた。こうした偽りによって、ダビデは、ペリシテ人の手を強めていた。……ダビデは、これらの異邦の種族が減ぼされることは、神のみ旨であることを知っていた。そして、自分にその任務がゆだねられていたことを知っていた。しかし、彼が、人をあざむいていたのでは、神の勧告に従って歩んでいるとは言えなかった。」(同上 356)

3. 神の救出の必要

- a. ダビデはさらにどの問題に滑り落ちましたか (サムエル記上 28:1, 2)。彼のどの祈りが、ついにこのような過ちから学んだことを明らかにしていますか (詩篇 141:3)。

「ダビデは、自分の民族にさからう気持ちは少しもなかった。彼の義務が何であるかを、事態が進展してはつきりと示すまで、彼はどのような行動をとってよいかよくわからなかった。彼は、王にあいまいな返事をして言った。『よろしい、あなたはしもべが何をするかを知られるでしょう』(サムエル記上 28:2)。アキシは、戦争が起これば、ダビデは王を援助すると約束したものとこの言葉を理解した。そしてダビデに大きな栄誉を与えることを誓い、ペリシテの宮廷の高い地位に彼をつけた。」(人類のあけぼの下巻 357)

- b. ダビデの過ちにもかかわらず、主はどのように憐れみ深くアキシとの苦境から彼を救出して下さいましたか (サムエル記上 29:1-5)。

「主と主の民の仇敵のところよりは、山々の、神の城塞に隠れたほうがどんなにかよかったのである。しかし、主は、深く彼をあわれんで、そのしもべの過失を罰することをせず、彼が苦悩と混乱に陥るままにしておかれた。ダビデは神の力を見失い、完全な忠誠の道からそれたとは言え、なお、神に忠実に仕えようと思っていたのである。サタンと彼の軍勢が、忙しく神とイスラエルの敵を助け、すでに神に拒否された王に対抗して計画をたてていたときに、主の天使は、ダビデが陥った危険から彼を救うために働いていた。天使たちは、切迫した戦闘にダビデとその部下たちが参加していることに反対させようと、ペリシテの君たちを動かしていた。」(同上 377, 378)

- c. ダビデを家に送り返したときのアキシの態度を述べなさい (6-11 節)。これはダビデのうちにどのような気持ちを引き起こしたはずですか。

「アキシの返答は、ダビデの心に恥辱と悔悟の戦慄を与えたにちがいない。彼は、主のしもべとしてあるまじき欺瞞行為を行なったことを痛感していたのである。」(同上 379)

4. 聖なる希望

- a. わたしたちの言葉が純潔であることは、特にこの終わりの時代に、どれほど重要ですか。またそれはどのようにしてのみ可能ですか(黙示録 14:1, 5; ヤコブ 4:8)。

「生活から、欺瞞的な習慣を捨て去りなさい。」(家庭の教育 146)

- b. チクラグでダビデが何に直面したかを述べなさい(サムエル記上 30:1-6 (上句))。

「ダビデは、ここでもまた、彼に信仰がなく、ペリシテ人の中に身を隠したことの懲らしめを受けた。神と神の民との敵の中に、どれほどの安全があるかを見る機会がダビデに与えられた。」(人類のあけぼの下巻 380)

- c. この危機の時に、ダビデは何を決心しましたか(サムエル記上 30:6 (下句); 詩篇 56:1-3, 10-12)。

「〔ダビデ〕は、自らを神の敵の最も苦い敵の手の側におきながら、どのようにイスラエルの神が自分に保護を与えると期待できたであろうか。…彼は神が絶滅させるように定められた民に避難所を求めることによって自らを救うとともに望めたであろうか。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 11 月 9 日)

「ダビデは、すべての人間的支援から切り離されたように思われた。彼が、この地上で大切にしていたものは、みな奪い去られてしまった。サウルは、彼を国外に追放した。ペリシテ人は、彼を陣営から追い出した。アマレク人は、彼の町を略奪した。彼の妻たちと子供たちは、捕虜になってしまった。そして、彼の親しい友は団結して彼に反抗し、彼を殺そうとさえした。ダビデは、このようにどうしようもなくなったとき、この悲運を憂慮しないで、熱心に神に助けを仰いだ。彼は、『主によって自分を力づけた』(サムエル記上 30:6)。彼は、自分の過去の生涯のいろいろな事件をふり返った。いったい、主が彼をお見捨てになったことがあろうか。彼は、神の恵みの証拠を数多く思い出して勇気づけられた。ダビデの従者たちは、不満とあせりによって、彼らの苦痛をさらに耐えがたくしていた。しかし、神の人は、さらに大きな悲痛の原因があつたにもかかわらず、あくまでも忍耐した。

彼は心の中で言った。『わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます』(詩篇 56:3)。彼自身は、この困難な事態から脱出する方法を認めることはできなかったが、神は、それを見ることができ、彼に何をすべきかをお教えになるのであつた。」(人類のあけぼの下巻 380, 381)

5. わたしたちの惜しめない供給者

a. 主はどのようにダビデの祈りを尊ばれましたか (サムエル記上 30:7-9, 16-19)。

「[アマレク人たち] は、多くの捕虜を連れて帰って、彼らの勝利の榮譽をはなやかなものにし、後で彼らを奴隷に売ろうと思い、そのまま生かしておくことにした。こうして彼らは、無意識のうちに、神のみこころを実現し、捕虜たちに害を加えることなく、その夫や父のところへ返すことになった。」(人類のあけぼの下巻 382)

b. 刈り取った報奨金に関するダビデの決定には、どのような霊的な教訓が含まれていますか (20-26 節; ヨハネ 4:36-38)。

「後方に残った人々のところへ来たときに、四百人の中の利己的で乱暴な人々は、戦いに参加しなかった者には戦利品の分けまえを与えるべきではないと言い張った。彼らは、妻と子供をとりかえただけで十分であるというのであった。しかし、ダビデは、そのような取りきめを許さなかった。[サムエル記上 30:23, 24 引用]。こうして、このことは解決し、銃後の任務をりっぱに果たした者は、すべて、実戦に参加したものと同様に戦利品の分けまえにあずかることが、のちにイスラエルの律法として定められた。」(同上 382, 383)

「今日、神の大収穫の畑において、神は種をまく者と刈る者を必要としておられる。働きに出ていく人々、ある者はまき、ある者は刈るが、決して自分たちはその働きの成功のために自らに栄光を帰してはならないことを覚えさせなさい。…」

『刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共に喜ぶためである』(ヨハネ 4:36)。これらのみ言葉を注意深く読みなさい。それらの意味を研究しなさい。なぜなら、それらは神のご計画の要点を述べているからである。」(福音宣伝者 409)

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのようにガテに行くダビデの考えを採用することを避けられますか。
2. 世俗的な外交様式と受け継ぐ危険を説明しなさい。
3. 困難のうちにいるまじめな魂を神が救出なさる方法を考えなさい。
4. 詩篇 56 篇の背景を述べなさい。
5. 霊的にまいたり、刈ったりする報いは何ですか。

謙遜な者が高められる

「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」
(ルカ 14:11)

「イスラエルは、神の命じられた王をいただいた。忍耐して主を待ち望んでいた者は、神の約束の実現を見たのである。」(人類のあけぼの下巻 395)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 358-376 387-399

日曜日

2月14日

1. 妬みによって食い尽くされた王権

- a. サウルが自分の指導者としての義務をなおざりにした結果と、また彼が陥った悪の深さを説明しなさい (サムエル記上 28:1 (上句), 5-7)。

「王とその諮問者たちがダビデを捕らえる計画を立てているあいだ、国家実務は誤って執り行われ、なおざりにされていた。…サタンの言うがままに従うことによって、サウルは自ら、きよめられていない能力をもって防ごうとしていた結果そのものへと急いでいた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホット・コメント] 2 巻 1019)

「[サウルが] 神を捨てた。そして、ついには死と契約を結び黄泉と同意していた者に、知識を求めたのであった。」(霊的賜物 4A 巻 84)

- b. 王にその破滅へと誘ったのはサタンの欺瞞であったことが、どのようにわかりますか (サムエル記上 28:8, 11, 13-20; ヨブ 7:9)。

「口寄せの女のじゅもんによって現われたのは、神の聖なる預言者ではなかった。サムエルは、あの悪霊の巣くつにいたのではなかった。この超自然的出現は、サタンの力によるものにほかならなかった。サタンは、荒野でキリストを試みたときに、光の天使を装うことができたのと同様に、サムエルを装うことはやさしくできたのである。」(人類のあけぼの下巻 361, 362)

2. 明け渡された王座

a. ついに何がサウルを殺しましたか (サムエル記上 31:1-6; 歴代志上 10:13, 14)。

「サウルは、反逆の道を歩んでいた間、いつもサタンにおだてられ、欺かれていた。人々に罪を軽視させ、犯罪者の道を容易で好ましいものに思わせ、主の警告と脅迫とに、人々の心をくらませることが、誘惑者の仕事である。サタンは非常な魅力をもって、サウルにサムエルの譴責と警告とを軽視させて、彼自身を正当化させた。しかし、今、彼が窮地に陥ったときに、サタンはサウルに背を向け、罪が大きくその許しを得ることが絶望的であることを指摘して、彼を自暴自棄に追いやった。彼の勇気をくじき、判断をあやまらせ、また、彼を絶望と自殺にかりたてるのに、これ以上の方法はほかになかった。…

サウルは、暗黒の霊に問うことによって、自分を滅ぼした。」(人類のあけぼの下巻 364, 365)

「サウルはエンドルの魔法使いに勧告を仰ぐというこの最後の行為において、自分を神に結びつけていた最後の糸を断ち切った。…彼の悪の杯は満ちた。」(霊的賜物 4A 巻 85)

b. 神はいわゆる死者との交信(降霊術)に対して、どのように明確に禁じておられますか (申命記 18:10-12; レビ記 20:27)。

c. ダビデがサウルの死に対して反応した方法から、わたしたちは何を学ぶべきですか (サムエル記下 1:4, 11, 12, 17-21; マタイ 5:43-45)。

「ダビデは、サウルの死を心から深く悲しんだ。それは、ダビデの気高い心の広さをあらわしていた。彼は、敵が倒れたことを喜ばなかった。彼がイスラエルの王座につく障害は除かれたけれども、彼はこれをうれしく思わなかった。サウルの不信と残酷さの記憶は、死によって消し去られて、気高い王者としての彼の記憶のほかは、何も心に浮かばなかった。サウルの名は、真実で無我の友情の持ち主であったヨナタン名と結び合わされた。」(人類のあけぼの下巻 384, 385)

3. 敵に対する丁重さ

- a. ダビデが喪の期間を過ぎた後にした活動を述べなさい (サムエル記下 2:1-7)。
- b. アブネルとはだれでしたか。また彼はどのようにダビデに問題を引き起こしましたか (サムエル記下 2:8-11)。

「こうした事情のもとにあつて、アブネルは、彼の本性を現わし、彼が野心家で無節操な人間であることを暴露した。彼は、サウルと親しく交わっていたので、王の精神に感化され、神がイスラエルの王位に選ばれた人を軽べつした。サウルが陣営で眠っていて、王の水のびんとやりが彼のそばから奪われたときに、ダビデが彼を激しく責めたことがあつた。そのために、彼は、ますますダビデを憎んだ。彼は、ダビデが、王とイスラエルの人々の前で言ったことを覚えていた。〔サムエル記上 26:15, 16 引用〕。この譴責は、彼の心に食い入った。そして、彼は、報復を企てて、イスラエルを分裂させ、それによって自分の地位を高めようと決心した。彼は滅びた王家の一員を利用して、自分の利己的野心と目的を達成しようと企てた。彼は、人々がヨナタンを愛していたことを知っていた。ヨナタンの思い出は、心に深く秘められていた。そして、軍勢は、サウルの最初の遠征の勝利を忘れてはいなかった。この反逆の指導者は大義名分を掲げて、彼の計画の実行にとりかかった。」(人類のあけぼの下巻 389-390)

- c. 王座はどのように定まりましたか。またどのようにダビデは、かつて敵であった者に対する高潔さによってイスラエルの心に触れましたか (サムエル記下 3:1, 30-37)。

「ダビデが彼の恨み重なる敵を寛大な心をもって弔ったことは、イスラエル全土の信頼と賞賛を勝ちえた。…」

〔アブネル〕は、神が任命された王にしつこく反抗し、自分の榮譽を追求していた。……。彼もしも彼の企てが成功したならば、彼の才能と野心やその大きな勢力と敬神の念の欠如などが、ダビデの王位と王国と繁栄を危機に陥れたことであろう。」(人類のあけぼの下巻 392, 393)

- d. サウルの息子イシボセテ、すなわち対抗者となるかもしれなかった者を殺すことによってダビデの恩寵を得ようと望んだ者の行動に対して、彼はどのように反応しましたか (サムエル記下 4:5, 6, 9-12)。

「神ご自身がダビデの王位を確立し、敵から彼を救ってくださったのであるから、ダビデは、なにも、彼の力を確立するために裏切りの援助を望まなかった。」(同上 394)

4. 学んだ教訓

- a. ダビデはどのように、自分が発達させてきた品性を通して、全イスラエルの支持を受けましたか (サムエル記下 5:1-5, 10; ルカ 14:11 (下句))。

「こうして、神の摂理によって、〔ダビデ〕が王位につく道が開かれた。彼は、自分の野心を満足させようとは思わなかった。彼に与えられた栄誉は、自分で求めたものではなかったのである。」(人類のあけぼの下巻 394)

「〔ダビデの〕堅固さ、謙遜、正義への愛、そして品性の決断力は、神の高いご目的を実行する資格を彼に与えた。…

彼の宗教的な品性はまじめで熱心であった。神がダビデをご自身の心にかなう者と呼ばれたのは、ダビデがどのように神に真実であり、これらの高い品性の特質を有している間であった。」(預言の霊 4A 巻 85, 86)

- b. ダビデは、どのように神の至上権を認めようと計画していましたか (サムエル記下 6:1, 2)。

- c. ウザに何が起こりましたか。それはなぜでしたか (サムエル記下 6:3-7; 民数記 4:15; 7:6-9)。

「ウザの死は、明白な命令にそむいた罰であった。主は、モーセによって、箱を運ぶときの特別の指示を与えておられた。……彼らがキリアテ・ヤリムから箱を移動した際、主の指示に対して直接、許すことのできない違反を犯したのであった。」(人類のあけぼの下巻 400)

「ウザは僭越というさらに大きな罪を犯した。彼は神の律法を犯して、その神聖さを自覚なくなり、告白しない罪をいただいたまま、神が禁じておられるにもかかわらず、神の臨在の象徴にあえて触れようとした。神は、部分的服従や神の戒めをあいまいに取り扱うことをお受け入れにならない。神は、ウザを罰することによって、神の要求に厳密な注意を払う重要性を、全イスラエルに印象づけようとした。こうして、ひとりの人間の死によって、人々が悔い改めるようになり、幾千の人々を罰する必要があるようにするのであった。」(同上 401)

5. 僭越を避ける

- a. 様々な形態の僭越へ向かう人間の大胆で高慢な傾向に対して、わたしたちはどの警告に注意を払わなければなりませんか（使徒行伝 17:30, 31; ヤコブ 4:17）。

「ダビデと彼の民とは、聖なる働きをするために集まり、心から喜んでそれに従事したのであった。しかし、それが主の指示に従って行なわれていなかったために、主はその奉仕を受け入れることがおできにならなかった。ペリシテ人は、神の律法を知らなかったから、箱をイスラエルに返すときに車に載せた。そして、主は、彼らの努力をお受け入れになった。しかし、イスラエル人は、彼らの手中に、これらすべてのことに関する神のみむねを明らかにしたものを持っていた。そして、これらの指示をなおざりにすることは、神のみ栄えを汚すことであった。」（人類のあけぼの下巻 400, 401）

「正しい意図があったというだけでは足りない。人は自分が正しいと思うことや牧師が正しいと言うことをするだけでは不十分である。自分の魂の救いにかかわる問題である以上、人は自分で聖書を探究しなければならない。」（各時代の斗争闘下巻 364, 365）

「主はご自分の人間代理人のだれ一人でも、自ら過ちを犯す死すべき人間にすぎない者の指示と支配の下におくことをなさらなかった。…〔神は〕この権威を自分のものとする人々を裁かれる。彼らにはウザがあたかも神はご自分の神聖な象徴を守ることがおできにならないかのように、箱を動かないよう手を置いて押さえたのと同じなんらかの精神がある。神の人間代理人に対して、人間の力や権威ははるかに少なく働かせるべきである。兄弟がたよ、神に支配していただきなさい。」（牧師への証 347, 348）

「神はご自身の働きを運営なさる。であるから、自分の手を神の箱の上に置く人は災いである。」（原稿リ-ス 16 巻 114）

個人的な復習問題

1. サウル王の失墜の過程を述べなさい。
2. わたしはどのようにもっと、サウル之死の知らせを聞いたときのダビデのようになれるか。
3. わたしはどのようにもっと、アブネルやイシボセテに話したときのダビデのようになれるか。
4. 何によって、わたしはウザのように霊的な危険のうちにいうことになるかもしれませんか。
5. わたしが今日、ウザの罪を犯すかもしれないいくつかの方法をあげなさい。

神の知恵のうちに成長する

「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ることは、悟りである。」(箴言 9:10)

「〔ダビデ〕は、神の力によってのみ王位にふさわしい者となり、神の知恵によってのみ賢明に統治し得るということを知った。」(教育 171)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 400-408

日曜日

2月21日

1. 神聖なものへの恐れのうちにいるべき

- a. 契約の箱に触れたことによってウザが打たれて死んだ後、ダビデは—そしてわたしたちも各自—神の律法の聖なることについて、何を学ぶべきですか (サムエル記下 6:8-10)。オベデエドムは、どのように、またなぜ報われたのですか (11 節；箴言 9:10)。

「ダビデは、驚き、大いに恐れて、心の中で神の正義を疑った。彼は、神の臨在の象徴として箱を尊ぼうとしていたのである。それなのになぜこの恐ろしい罰が与えられて、喜ばしい光景が悲しみと嘆きの時とかわったのであろうか。」(人類のあけぼの下巻 400)

「ダビデは、彼自身の心が、神の前に全的には正しい関係にないことを感じた。そして、ウザが撃たれたのを見て、自分も何かの罪のために罰せられるのではないかと思って、箱を恐れた。しかし、オベデエドムは、喜びにふるえながらも、服従する者に対する神の恵みの契約として、神聖な象徴を歓迎した。今や、全イスラエルの注目がガテ人と彼の家族に向けられた。すべての者は、それが彼らのところでどうなるかを見守った。〔サムエル記下 6:11 引用〕。

神の譴責は、ダビデに対して効果を現わした。彼は、これまでになかったほどに、神の律法の神聖さと厳密に服従する必要とを自覚した。…

今度は、主の指示に厳密に従おうと真剣に注意するのであった。」(同上 401)

2. 二度目の試み

- a. ダビデが契約の箱を運ぶときに、どのように従順に心を配り、敬神を働かせたかということから、わたしたちは何を学ばなければなりませんか (サムエル記下 6:12, 13; イザヤ 52:11)。

「今度は、主の指示に厳密に従おうと真剣に注意するのであった。ふたたび、国家のおもだった人々が召集され、大群衆がガテ人の家のまわりに集まった。箱はうやうやしく、神の命を受けた人々の肩に載せられた。群衆は、その後に従った。大行列は、震えおののきながら、ふたたび動き出した。六歩進むと、ラッパが鳴って大行列は止まった。ダビデの命によって、『牛と肥えた物』が犠牲としてささげられた。」(人類のあけぼの下巻 401, 402)

「男女は聖書の知識によく通じているかもしれない、契約の箱と共にあったイスラエル人と同じように聖書に精通しているかもしれない。それでいながら、もし彼らの心が神のみ前に正しくなければ、成功が彼の努力に伴うことはない。神は彼らと共におられない。彼らは天の律法について高い義務感がなく、また自分たちの教えている真理の神聖な性質を悟ってもいない。ご命令は、『主の器をになう者よ、おのれを清く保て』である (イザヤ 52:11)。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 998)

- b. ダビデが厳粛な行列を導いた道を述べなさい。また、この時にどのような衣服をまといましたか (サムエル記下 6:14)。

「王は、王衣を脱いで、祭司が着るような亜麻布のエポデを身につけた。この行為によって、彼は、祭司の勤めをしようと思ったのではなかった。エポデは、時には、祭司以外の人も着ていた。しかし、彼は、この聖なる式典において、神の前に彼の国民と平等の立場をとりたかったのである。その日、あがめられるのは、主であった。ただ主だけが尊崇の対象とならなければならなかった。

長い行列は、ふたたび動きだして、琴、角笛、ラッパ、シンバルなどの楽の音が、多くの人の歌声とまじって空に響いた。そして、ダビデは喜びに満ちて、歌の調子に合わせて、『主の箱の前で踊った』(人類のあけぼの下巻 402)

3. 敬神的な喜び

- a. ダビデが「踊ったこと」について、わたしたちは何を悟らなければなりませんか (サムエル記下 6:14 (上句); テサロニケ第一 5:5)。

「ダビデが神の前で、敬虔な喜びに満ちて踊ったことを引用して、快楽愛好者たちは今流行している社交ダンスを正当化しようとするが、これは、そうした議論の根拠にはならない。今日、ダンスといえば、道楽と夜半の酒宴と結びついている。快楽のために、健康と道徳が犠牲にされている。ダンス・ホールに行く人々は、神を考えもしなければ、敬いもしない。祈りや賛美の歌は、彼らのつどいの場には不適當に思われる。これが決定的試験でなければならない。クリスチャンは、神聖なことに関する愛を弱めたり、神に奉仕する喜びを減少したりする傾向のある娯楽を求めてはならない。箱を移動するに当たって、喜びにあふれて神をたたえた音楽と踊りは、今日のダンスという娯楽とは、少しも似通ったところがなかったのである。一つは、神をおぼえて神の神聖なみ名を高めるものであった。他のものは、人々に神を忘れさせ、神のみ名を汚させるサタンの手段である。」(人類のあけぼの下巻 402)

- b. 聖なる箱がエルサレムの門を入るときに伴った合唱、行列、そして、ダビデの惜しみないもてなしの証拠を述べなさい (詩篇 24:7-10; サムエル記下 6:17-19)。

「こうして門は広く開かれて、行列は都の中にはいり、箱は、それを迎えるために設けられた天幕の中にうやうやしく安置された。神聖な場所の前に、犠牲をささげる祭壇が築かれた。酬恩祭と燔祭の煙と、香の煙とがイスラエルの賛美と祈りとともに、天にのぼっていった。礼拝はこれで終わった。王は、自分で民を祝福した。そして、王は、恵み深くも食物とほしぶどうの贈り物を、茶菓として彼らに分け与えた。

この式典には、全部族が代表されていた。これは、ダビデのこれまでの治世のうちで、最も神聖な祝典であった。神の靈感が王に臨んだ。そして、沈みゆく太陽の光線が、幕屋を聖なる光に包んだときに、彼は、恵み深い神の臨在の象徴が、イスラエルの王座のそば近くに、いま、置かれたことを、心から感謝したのである。」(同上 403, 404)

4. 誇り 対 敬神

- a. ダビデが自分自身を王として主張する代わりに、すべての栄光を神に帰したことを見て、サウルの娘ミカルのうちには、どのような先天的な気質が起きましたか。また神は彼女の苦さをどのように譴責なさいましたか（サムエル記下 6:16, 20-23）。

「サウル王の娘の尊厳と誇りは、ダビデ王が自分の王衣をわきへおき、自分の王笏をおいて、祭司のまとう単純な麻衣をまとったのを見て、衝撃を受けた。彼女は彼がイスラエルの民の前に大いに自分を辱めたと思った。しかし、神は、ダビデにご自分の霊を宿らせて下さることにより、全イスラエルの前で彼を尊ばれたのである。」（霊的賜物 4A 巻 112,113）

- b. 国家の中心に契約の箱を運んだ聖なる儀式は、何を例証していますか（黙示録 14:12, 13; ダニエル 12:2）。

「ダビデは自らを低くしたが、神は彼を高くされた。彼は靈感を受けた方法で歌い、豎琴を弾き、もつとも心を喜ばせる音楽を奏でた。彼は聖徒たちが神のみ声で自分たちの捕われの身が逆転し、神の戒めを守ってきたすべての人と平和の契約を結ばれる時に経験する聖なる喜びをわずかに感じた。」（同上 113）

「〔ダニエル書 12:2 引用〕。第三天使のメッセージを信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。」（各時代の斗争闘下巻 415）

- c. 契約の箱が場所に置かれた後、ダビデの王座が設置され、そして王は自分の敵を平定しました。何が彼の大きな願望でしたか（サムエル記下 7:1-3）。
- d. 主はどのようにダビデの願望にお応えになりましたか。それはなぜでしたか（4, 5, 12, 13 節；歴代志上 22:7-10）。

5. 他の人に与えられた夢

a. ダビデは神の判断に、どのように応じましたか (サムエル記下 7:18-22)。

「ダビデは、心の中でしようと計画した工事をすることは、彼の名の栄誉であり、彼の政府に栄光をもたらすものであることを知っていたが、快く彼の意志を神のみこころに服従させた。このように感謝の気持ちをもって思い切ることは、クリスチャンの中でさえ、あまり見られない。壮年の力にあふれた時期が過ぎても、したいと思った何かの大事業を自分でやりとげようとする人が、なんとよくあることであろう。ところが、彼らは、それに不適任なのである。神の預言者がダビデに語ったように、神の摂理は、彼らがしようと望んでいる仕事で、彼らに与えられないことを告げる。他のために道を備えるのが彼らの仕事である。しかし、多くの者は感謝して、神の指示に従うかわりに、自分たちが軽視または拒否されたものと思い、しりごみしてしまい、もし、自分たちがしようと思ったことができないのならば、何もするまいと思うのである。また、負う能力のない責任をなんとかして保持しようと努力する者が多い。彼らは、自分では十分することができないことをしようとしてむなしく努力する一方、彼らのできることをおろそかにしている。」(人類のあけぼの下巻 406, 407)

b. 神がわたしたちの願いを退けられるとき、何を理解しなければなりませんか (イザヤ 55:8, 9)。

「わたしたちの計画が必ずしも神の計画であるとは限らない。ちょうど、ダビデの場合になされたように、わたしたちが持っている最善の考えを拒むことが、わたしたちのためにも、神の働きのためにも最もよい方法とお思いになるかも知れない。…

わたしたちが自分のことを知っている以上にわたしたちをご理解になる神はわたしたちを愛し、ご配慮くださるみ心から、しばしば人間が利己的な野心を満足させることを…お許しにならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 457, 458)

個人的な復習問題

1. 神はご自分のみ言葉において、どのように高い地へわたしたちを導こうとしておられますか。
2. 神はわたしに以前よりもっと良いことをなす二度目の機会を与えて下っているかもしれませんか。
3. 契約の箱の行列について、どのような主だった特徴に気づきますか。
4. 契約の箱を運ぶことは、どのようにダニエル書にある特別復活と類似していますか。
5. わたしは忙しく他のことを望みながら、どのように神の召しをなおざりにするかもしれませんか。

第一安息日献金 世界災害救済金のために

終わりの時代には、「また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、…そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い」(ルカ 21:11, 25)。

この十年の間のハリケーン、竜巻、津波、旋風、地震、飢饉、疫病など述べる必要があるでしょうか？大惨事が多くの命を奪っています。寒さのために 3,000 以上、干ばつのために 2,000 以上による食料難の前によくある幾万もの死が主要な情報源によって報告されています。それでも、わたしたちの無限の愛の御父の心はそれらすべてを感じておられます。



「大災害が大犯罪や甚大な罪の確かな兆候だと考えるのは、人類にとって自然なことである。しかし、人はしばしばこうして品性を図ることに間違いを犯す。わたしたちは報復的な裁きの時に生存しているのではない。善と悪が混じっており、災害はすべての人に訪れる。時には、人間が神の保護の守りの向こうへ境界線を越える。そして、そのとき、サタンは自分の力を彼らの上に行使し、神は干渉されない。ヨブは非常に苦しめられた。そして彼の友らは彼にその苦しみが罪の結果だと認めさせ、彼を有罪宣告の下にいと感じさせようとした。彼らは彼の問題を大罪人の問題として表した。しかし主はご自分の忠実な僕について彼らのくだした裁きのために彼らを譴責された。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 3 巻 1140)

そうであれば、これらすべての災害の下に苦しんでいる魂についてはどうでしょうか？たしかに、無実な人々がしばしば有罪の者と共に苦しみます。家々は破壊され、穀物は損なわれ、命が病に襲われます。わたしたちの義務は何でしょうか？

「苦しんでいる隣人を救出せずにほうっておくことは、神の律法の破れである。…わたしたちは苦しんでいるすべての人の問題に心をかけ、自らを自分の能力の及ぶ最高にまで困窮している人々を救出するための神の代理人とみなすべきである。…わたしたちはすべての人に特に信仰の囲いの中にいる人々に対して善をなさなければならぬ。」(神の息子むすめたち 52)

「〔神は〕確かにご自分の買われた所有をなおざりにする人々、苦しむ人を自分たちの力で救済できるときに滅びるがままにしておく人々を裁かれるであろう。」(レヴィ・アンド・ヘラルド 1895 年 12 月 10 日)

どうぞ、世界災害救済金のために第一安息日献金が集められるときには、わたしたちの最善を尽くしましょう。神の苦しむ人々に奉仕することによって、このお方に奉仕するのだということを覚えながら。

世界総会福祉支部

成功の秘訣

「まことに、その救は神を恐れる者に近く、その栄光はわれらの国にとどまるでしょう。」(詩篇 85:9)

「ダビデの治世…にイスラエルに力を与えたのは、神の律法が尊ばれていたからであった。」(国と指導者下巻 81)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 407-413

日曜日

2月28日

1. 約束を守る者

a. ダビデの忠誠と正義を表す例を挙げなさい(サムエル記下 8:15; 9:1-6)。

「〔ダビデ〕は、子供のときから足なえであったヨナタンの子メピボセテのことを聞いた。サウルが、エズレルでペリシテ人に敗れたとき、この子のうばが彼を連れて逃げるときに、誤って落として、取りかえしのつかぬ足なえにしまった。ダビデは、この青年を宮廷に呼び、心から親切に彼を迎え入れた。」(人類のあけぼの下巻 407)

b. ダビデがこの疑い深いサウルの孫の心に触れることができたことから、わたしたちはどのような伝道の教訓を学ぶことができますか(サムエル記下 9:7-13)。

「メピボセテは、ダビデの敵の話を聞いて、彼を横領者のように考えて強い偏見をいだいていたが、王の寛大で丁重な歓迎と親切な取り扱いは、彼の心を捕えた。彼は、ダビデに強く引きつけられた。」(同上 408)

「やさしい同情をもって、失望した無力な者をしっかり捕えなければならない。彼らに、あなたの勇気、あなたの希望、あなたの力を与えなさい。親切に、彼らをして主のところに連れて来なさい。」(キリストの実物教訓 216)

2. 著しく誤解される

- a. アンモン人の王ハヌンは、まったくダビデの真心から表した本当の親切を、どのように誤解しましたか (サムエル記下 10:1-4)。

「〔アンモン人〕は慰めの言葉を伝えたダビデの寛大な精神を思い知ることができなかった。サタンが人の心を支配するとき、彼らにねたみと疑惑の念をいだかせて、どんな善意をも曲解させてしまうのである。

アンモン人は、彼らの本性が、ダビデによくわかるように、何の抑制も受けずに、彼らの邪悪な計画を実行することが許されたのである。イスラエルが、この不実な異邦の民と同盟を結ぶことは、神のみこころではなかった。」(人類のあけぼの下巻 409)

- b. 自分がイスラエルになした侮辱に対してどんな結果になり得るかを悟ったときに、ハヌンがすばやく取った行動は何でしたか (歴代志上 19:6, 7)。

「イスラエルに加えた侮辱が必ず報復されることを知っていたアンモン人は、戦争の準備をした。〔歴代志上 19:6,7 引用〕。

これは、実に恐るべき同盟軍であった。ユフラテ川から地中海に至る地域の住民が、アンモン人と同盟を結んだ。カナンの北と東は、イスラエル王国を粉碎しようとして結束した敵軍にかこまれた。」(同上 409, 410)

- c. ヨアブは自分の民を励ますために、何と宣言しましたか(8, 13 節)。ダビデもまた、どのように彼らを鼓舞し、驚嘆させましたか (サムエル記下 10:17-19)。

「ダビデは、この戦争の勝敗の結果の重大性を悟って自分みずから指揮に当たり、神の祝福のもとに、同盟軍に多大な損害を与えた。そして、レバノンからユフラテに至るスリヤ人が降参したばかりでなくて、イスラエルの属国になったのである。ダビデはアンモン人をも勇ましく攻め、ついに、彼らの城塞は落ちて、その全地域はイスラエルの領土となった。」(同上 410)

3. 救出と感謝

- a. わたしたちの戦争の武器は今日、肉なるものではありませんが、アンモン人に対するダビデの戦いの結果を考えることによって、わたしたちはどのように力を得ることができますか (サムエル記上 2:30 (第二句); ヨハネ第一 5:4, 5)。

「国家の存在を脅かした危機は、神の摂理のもとにイスラエルを、これまでになく強大な国家にする手段そのものとなった。」(人類のあけぼの下巻 410)

「こうして、イスラエル王国は、まずアブラハムに約束され、後にモーセにくりかえて与えられた約束どおりの範囲に達したのである。『わたしはこの地をあなたの子孫に与える。エジプトの川から、かの大川ユフラテまで』(創世記 15:18)。イスラエルは、周囲の国々から尊敬され、恐れられる大国になった。国内におけるダビデの勢力も非常に大きくなった。彼は、どの時代においても見られなかったほど、国民の愛情と忠誠を勝ち得たのである。彼は、神をあがめたのであった。だから、神は、今、彼に栄誉を与えておられるのであった。」(同上 413)

- b. ダビデは自分の救出において、何を認めましたか (詩篇 18:20-22, 35, 46-50; 44:4-8)。
- c. この期間に、イスラエルにどのような満足いく機会が与えられましたか。それはなぜですか (詩篇 85:6-9; 箴言 14:34)。

「イスラエルはダビデとソロモンの治世に、諸国間で強力になり、真理と正義のために大きな影響を及ぼす機会が多くあった。主のみ名は高く掲げられあがめられて、イスラエルの民が約束の国に確立された目的が実現するかに思われた。障壁は除かれた。そして、異教の国々から真理を求めて来た人々は満たされずに去ることはなかった。改心者が起こった。そして、地上における神の教会は拡張し繁栄した。

イスラエルに対する神の大いなるみこころは、統治者と国民とがたゆまず目を覚ましていて、彼らの前に置かれた標準に達するように努力することによってのみ達成されることを、ダビデは知っていた。」(国と指導者上巻 1)

4. 危険が待ち伏せている…

- a. ダビデの生涯に、どのような小さく見える罪が忍び込み、さらに悪い誘惑への道を敷きましたか (ヨハネ第一 2:15, 16; 箴言 5:18, 19)。

「〔ダビデは〕偶像礼拝を忌み嫌い、そして熱心にイスラエルの民を周囲の国々の偶像礼拝に誘惑されることから守った。彼は自分の民から大いに愛せられ、尊ばれた。

彼はしばしば打ち勝ち、勝利した。彼は富と偉大さを増し加えた。しかし、彼の繁栄は、彼を神から離れさせる感化を及ぼした。彼の誘惑は多く、強かった。彼はついに自分の周囲の王たちに一般的であった習慣に陥り、複数の妻を持った。そして彼の生涯は一夫多妻の邪悪な結果によって苦いものとなった。彼の最初の過ちは、一人より多くの妻を持つことであった。こうして神の賢明な取り決めから離れた。正しいことからこのように離れたことは、より大きな過ちのための道を備えた。王政の偶像礼拝国家は多くの妻を持つことを自分の誉れと威厳を増すものと考えた。そしてダビデは複数の妻を有することが、自分の王座に誉れを与えることだと考えた。しかし、彼は数多くの妻と子らの間における不幸な不一致、競争、嫉妬によって、そのような行動の哀れな悪を見させられた。」(霊的賜物 4A 巻 86)

- b. どのような見えない敵がダビデをつけねらい、またわたしたち一人ひとりにもつけねらいますか (エペソ 6:12)。わたしたちの唯一の防御は何ですか (エペソ 6:13; ペテロ第一 5:8, 9; 4:7)。

「繁栄のさなかに危険がひそんでいた。ダビデは、外的に最大の勝利を収めていたときに、最大の危機に陥り、最も屈辱的敗北を喫したのである。」(人類のあけぼの下巻 413)

「すべての魂のうちで、二つの勢力が勝利を得ようと真剣に苦闘している。不信はサタンに導かれて、わたしたちの力の源であるお方からわたしたちを切り離すためにその力を集結させる。信仰は、わたしたちの信仰の創始者であり完成者であるキリストに導かれて、その力を集結させる。時々刻々、全天の宇宙の見ている中、戦いは進められる。これは素手で戦う戦いである。大きな問いは、どちらが支配権を得るか、ということである。この問いは、各自が自分で決めなければならない。この戦いは、一方か他方かで戦いつつ、すべての人が参加しなければならない。戦いから解放されることはない。…わたしたちはこの戦いのために準備するよう強く勧められている。」(神の息子むすめたち 328)

5. 個々人の働き

- a. わたしたちは敵に対する戦いにおいて、どのようにしてのみ勝利者になれますか(ヤコブ 4:7, 8)。

「各自の働きは、主イエス・キリストの力と権力において敵に抵抗することである。そのとき約束は、悪魔はわたしたちから逃げ去るであろうということである。しかし、すべての人は自分たちが危険のうちにいること、そして次の聖句〔ヤコブ 4:7〕の条件に応じない限り安全はないことを悟るようにしよう。主は『神に近づきなさい』と言われる。どのようにしてであろうか。自分自身の心をひそかに真剣に吟味することによってである。幼子のような、心から感じる、謙遜な神への依存によって、自分自身の弱さをイエスに知らせ、また自分自身の罪を告白することによってである。こうしてあなたは神に近づくことができる。そのとき、神はあなたに近づいて下さる。」(神の息子むすめたち 346)

- b. わたしたちの絶えざる祈りは何であるべきですか。またなぜですか(詩篇 119:12-14; 139:23, 24)。

「神はご自分の民を一步一步導いておられる。このお方は彼らを心の中があわられるように意図された様々な地点へ導きのぼられる。ある人はある点を耐えるが、次で落ちてしまう。一つ進むたびに心はテストされ、より厳密に試される。」(教会への証 1 巻 187)

「人が自分の良心の告げることに従えば、自分自身は安全だと考えるのでは十分ではない。…解決すべき問題は、その良心が神のみ言葉と調和しているかということである。もしそうでなければ、それは安全に従うことができない。なぜなら、その良心は欺かれているからである。良心は神によって啓発されなければならない。聖書研究と祈りのために時間が与えられなければならない。こうして思いが確立し、強められ、定着するのである。」(思い、品性、個性 1 巻 324)

個人的な復習問題

1. わたしはどのようにして、ダビデがメビボセテにしたように、だれかを祝福するために、手を差し伸べることができるかもしれませんか。
2. ダビデは彼自身の軍隊に、どのような種類の印象を与えましたか。どのようにですか。
3. イスラエルはダビデの治世の間、なぜ驚くべき名声に到達することができたのですか。
4. ダビデに起こったように、わたしたちを巻き込むかもしれない潜むわなをいくつか挙げなさい。
5. わたし自身の良心について、何を悟る必要がありますか。

高められた者が低くされる

「不信実な者の道は滅びである。」(箴言 13:15 (下句))

「ダビデの例を引用して、自己の罪のとがを軽減しようと試みるものは、不真実な者の道は滅びであることを聖書から学ばなければならない。」(人類のあけぼの下巻 424)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 414-430

日曜日

3月7日

1. 広い道での安逸

- a. ダビデが迷い出るように導いた道をたどりなさい (サムエル記下 11:1-4)。わたしたちはこの罪に対して、どのように警告されていますか (ヘブル 13:4)。

「ダビデを墮落させたのは、自己過信と自己高揚の精神であった。甘言、陰険な権力の誘惑、ぜいたくなどが、彼に影響を与えずにはおかなかった。…東方の諸王の間の習慣に従って、国民の間では許されない犯罪が王には許された。王には、国民と同様の自制をする義務がなかったのである。こうしたことは、すべて、罪が、はなはだしく憎むべきものであることを、ダビデに感じさせなくしたのである。そして、彼は心を低くして主の力にたよる代わりに、自分自身の知恵と力にたよりはじめた。…

ダビデは、戦勝の成果と彼の賢明で有能な統治の栄光に包まれていた。誘惑者が彼の心を捕える機会をつかんだのは、彼がくつろいで油断していたときであった。神が、ダビデを神との密接な交わりに入れ、大きな恵みを彼に現わされたということが、彼の品性を汚さずに守る最も強力な刺激となっていなければならなかった。しかし、落ちついて、自己の安全が保されたときに、彼は神を手放した。ダビデはサタンに敗れて、魂に罪の汚点をつけた。国家の指導者として神の命を受け、神の律法を施行するために神に選ばれた彼自身が、その戒めをふみにじった。」(人類のあけぼの下巻 415)

2. 下降する道

- a. イエスは何が人を罪に対して弱くするかを、どのように説明なさいましたか (ヨハネ 15:5 (下句); ローマ 8:5, 6)。

「心を神からそらし、自己高揚と自己依存に陥れるものは何であっても、必ず、われわれを敗北させるものである。……

サタンは、唯一の力の源である神から魂を引き離すとすぐに、人間の肉の心の汚れた欲望を起こさせようとする。敵の働きは、急激ではない。それは、最初は、突然でも驚くほどのものでもない。それは、原則の城塞をひそかにくつがえすことである。それは、初め、神に対する忠誠と、全く神に信頼することを怠るとか、世の風俗や習慣に従おうとする気持ちなどの、一見小さいことから始まる。」(人類のあけぼの下巻 414, 415)

- b. 何がダビデの状況を複雑にしましたか (サムエル記下 11:5)。ダビデが自分の罪を隠そうとした試みを、なぜ神は成功させることがおできにならなかったかを説明しなさい (サムエル記下 11:10-13)。

「罪を隠そうとするあらゆる努力は、すべてむだに終わった。彼は、サタンの権下に自分を陥れてしまった。危険が、彼を取り巻き、死よりもきびしい恥辱が迫っていた。」(同上 416)

- c. 罪に罪を加えるように誘惑されたとき、ダビデはどのように感じましたか。また神はこのことをどのようにお感じになりましたか (サムエル記下 11: 14-17, 26, 27; 詩篇 32:3, 4)。

「〔ダビデにとって〕逃れる道は一つしかないように見えた。そして絶望のうちに、彼は姦淫に殺人を加えた。サウルを滅びへと向かわせた者が、ダビデをも破滅へ導こうとしていた。誘惑は違ったが、それらは等しく神の律法を犯すように導くものであった。」(同上 416)

「〔ダビデ〕は、自分自身の罪深い道を言い訳してきたので、自分の道が彼自身の目には通用するようになって見えた。一つの誤った一歩が、次の道へ備えるのである。…

ダビデが神から離れ、自分の犯罪によってその高潔な品性にしみをつけたとき、彼はもはや神の御心にかなうものではなかった。」(霊的賜物 4A 巻 86, 87)

3. 厳しい譴責

a. 預言者ナタンによって、神はどのメッセージを送られましたか（サムエル記下 12:1-9）。

「神は、ダビデをあわれんで、彼が罪のいつわりの報酬によって完全な滅びに陥るままに放任されなかった。

また、イスラエルのためにも、神の介入が必要であった。時の経過につれて、バテシバに対して行なったダビデの罪が明るみに出て、彼がウリヤの死を計画したのではないかという疑惑が起った。主のみ栄えが汚された。主は、ダビデを恵み、高められた。ところがダビデの罪は、神の品性を誤表し神のみ名をはずかしめた。それは、イスラエルにおける敬神の念の標準を下げ、多くの人々の心の中の罪に対する嫌悪感を低下させるものであった。他方では、神を愛することも恐れることもしない人々は、それによって、大胆に罪を犯すのであった。」（人類のあけぼの下巻 418, 419)

b. ダビデの応答と神の即座の憐れみを述べなさい（サムエル記下 12:13）。それにもかかわらず、何がダビデの罪の苦しいいくつかの結果となるはずでしたか（サムエル記下 12:10-12, 14）。

「ダビデは夢から覚めた。彼は自分の罪を感じた。彼はサウルのように自分の道を言い訳したり、弁解したりしようとしなかった。かえって、自責の念と真心からの悲しみをもって、彼は神の預言者の前に頭を垂れ、自分の罪を認めた。ナタンはダビデに、その悔い改めと謙遜な告白のゆえに、神が彼の罪を許し、脅かされた災難の一部を転じられ、彼の命を救われることを告げる。それでも彼は、主の敵に冒涇する大きな機会を与えたために罰せられるのであった。

この機会は、ダビデの時代から現代に至るまで、神の敵に活用されてきた。懷疑論者は、ダビデが彼らに与えた機会のゆえに、キリスト教を攻撃し、聖書をあざけてきた。…

神はダビデに裁きをもって臨まれ、悪が彼自身の家から神に向かって台頭（たいとう）するのを許されることによって複数の妻を持つダビデを不快に思っておられることを示される。神がダビデに、すなわち、かつてはその高潔さのゆえに神の御心になうものと呼ばれた者に恐るべき災難が訪れることを許されたのは、だれでも神の戒めを犯している者が義とされることはないこと、かえって、かつては心の純潔のうちに主に従っていた間にどれほど正しく神の恩寵を受けていたとしても、神の戒めを犯している者が義とされることなく、このお方は必ず有罪の者を罰せられることの証拠である。義人が自分の義から向きを変えて悪をなすとき、過去の義が、義にして聖なる神の怒りから彼らを救うことはない。」（靈的賜物 4A 巻 86, 87)

4. 本物の悔い改めが必要とされている

- a. ダビデの心からの悔い改めの深さを述べなさい(詩篇 51:1-4, 7, 10-14)。聖なる歌を通じて、彼はわたしたちすべての者に対して、どの公の訴えをしていますか。

「ダビデはちりと灰の中で自分の罪を悔い改めた。彼は神の許しを嘆願し、自分の悔い改めを偉人たちから、また自分の王国の僕たちからさえ隠さなかった。彼は悔悟の詩篇を作り、自分の罪と悔い改めを詳細に物語った。その詩篇が後の世代に歌われることを彼は知っていた。彼は他の人々が自分の生涯の悲しい歴史から教えられることを望んだ。

ダビデが作詞した歌はすべてのイスラエル人に歌われた。…彼は自分の罪の告白が自分の罪を他の世代に知らせることになるのを知っていた。彼は自分の問題を提示し、自分がだれに信頼を置き、許しを求めてだれに希望を持っているかを示した。」(霊的賜物 4A 巻 88)

「〔ダビデ〕は、自分と関係のない問題、自分が心配するものではないとうめばれることはなかった。彼は自分の心の欺瞞の深さを見て、自らに深く嫌悪を感じた。そして神にそのみ力によって僭越の罪から自分を守って下さり、隠れたとがからきよめて下さるように祈った。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1147)

- b. 罪に関して、わたしたちは何を悟らなければなりませんか(エゼキエル 33:12, 13, 18; ヨハネ第一 3:4)。

「王座につく者が犯しても、人生のよりつつましい歩みをしているものが犯しても、罪は罪である。罪を犯した者がすべて告白する日が来る。彼らが許しを受けるには遅すぎたとしてもである。神は罪人が悔い改めるのを長く待っておられる。このお方はすばらしい寛容を表される。しかし、このお方はついにはご自分の律法を犯す人々に説明責任を求めなければならない。…

神の誠実な子供は、このお方のご要求を少しも軽くしない。…

わたしたちが自分の罪を見たり、自覚したりしないように、目を閉じたり、自分の良心を頑なにしたりすることは安全ではない。わたしたちは悔い改めることができるために、罪の憎むべき性質に関して受けてきた教えを心にいだいている必要がある。」(同上)

5. 思想のための食物

- a. 神が悔い改めを受け入れて下さることが、どのようにわかりますか（詩篇 51:16, 17; 32:1, 2, 5-7）。

「ダビデは、絶望して苦闘を放棄することをしなかった。悔い改める罪人に対する神の約束の中に、許されて受け入れられる証拠を彼は見たのである。」（人類のあけぼの下巻 428）

- b. ダビデの悔い改めは、どのようにわたしたちへの励ましとなることができますか（イザヤ 55:7; ヨハネ第一 1:9）。

「神は、こうしたことよりは、はるかに軽く思われる罪を犯したサウルを拒否したあとで、このように大罪を犯したダビデを許すとは、不公平であると言って、つばやく人が多い。しかし、ダビデは、けんそんに自分の罪を告白したが、サウルは、譴責を軽んじて、心を頑固にして、悔い改めなかったのである。

ダビデの生涯の中のこのできごとは、悔い改める罪人にとって、非常に重大である。これは、人類の苦闘と誘惑、そして、神に対する悔い改めと、われらの主イエス・キリストに対する信仰に関して与えられた最も感銘深い例の一つである。これは、各時代を通じて、墮落して罪の重荷にあえぐ魂を鼓舞してきたのであった。罪に負け、今にも絶望に陥ろうとした神の子供たちの多くは、ダビデが罪に苦しんだとは言え、真心からの悔い改めと告白によって、神に受け入れられたことを思い出したのである。そして、彼らもまた勇気づけられて、悔い改め、神の戒めの道を歩もうと、ふたたび試みたのである。

神の譴責を受けたときに、けんそんに罪を告白して悔い改める者は、だれでもダビデのように希望をもつことができるのである。信仰をもって神の約束を受け入れるものは、だれでも許されるのである。」（同上 429, 430）

個人的な復習問題

1. どのような種類の状況がわたしをもっと罪に陥りやすくするかもしれませんか。
2. ダビデはいつ神の御心にかなう者でしたか。そしていつそうではなくなりましたか。
3. もしだれかがナタンのようにわたしに突きつけたとしたら、わたしはダビデから何を学ぶことができますか。
4. わたしたちすべての人にとって、なぜ深く真剣な悔い改めが、それほど重要なのですか。
5. ダビデの墮落という悲劇的な歴史は、どのようにわたしたちに希望をもたらしますか。

胸が張り裂けるような結果

「わが敵よ、わたしについて喜ぶな。たといわたしが倒れるとも起きあがる。たといわたしが暗やみの中にすわるとも、主はわが光となられる。」(ミカ 7:8)

「〔神は〕ダビデがむちの下を通るのを許されたが、彼を滅ぼされなかった。妒は、滅ぼすためではなくて清めるためであった。」(人類のあけぼの下巻 445)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 431-444

日曜日

3月14日

1. 罪の苦々しい影響

a. ダビデの罪の後、起きた変化を説明しなさい(箴言 6:32, 33)。

「ダビデは罪を悔い改めて許され、主に受け入れられたのではあったが、彼は、自分自身がまいた種の痛ましい実を刈り取ったのである。彼と彼の家にくだった刑罰は、罪に対する神の憎しみを証明している。

ダビデの罪は、彼と神との関係を変えた。主が、彼の悪を是認することは、どうしてもおできにならなかった。主はサウルの敵意からダビデを保護したように、彼を、彼の罪の結果から保護する力を働かせることはおできにならなかった。

ダビデ自身にも大きな変化が起こった。ダビデは、彼の罪とその広範囲に及ぶ影響とを自覚して、心がくだかれた。彼は、国民の前で恥辱をこうむった。彼の感化力は弱まった。これまで、彼の繁栄は、彼が主の戒めに忠実に従ったためであると考えられていた。しかし、彼の罪を知った国民は、さらにかって気ままに罪を行なうに至った。彼自身の家の中での彼の権威と、むすこたちに尊敬と服従を要求する彼の力とは弱まった。彼は、罪を責めるべきときにも、自己の罪悪感のために、沈黙を守った。これは、彼の腕を弱めて、彼の家の中で正義を行なうことを不可能にした。彼の悪行がむすこたちに影響を及ぼした。そして、神は、そうした結果が起こらないように介入することをされなかったのである。神は、物事を自然のなりゆきにまかせられた。こうして、ダビデはきびしく罰せられた。」(人類のあけぼの下巻 423, 424)

2. 息子たちにある悪

- a. ダビデの長男であるアムノンについて、何と記されていますか (サムエル記下 13:1, 2, 10-16)。なぜダビデはアムノンの暴力的な行為に関して自分の確信を実行に移さなかったのですか (サムエル記下 13:21; ローマ 2:1)。

「ダビデは、長子アムノンの不面目な犯罪を罰しも譴責もせずに見過ごした。律法は、姦淫を犯すものに死の宣告を下していた。それに、アムノンの人間性にもとった犯罪は、彼を二重に罪深いものにした。しかし、ダビデは、自分自身の罪に心を責められていたので、犯罪者を罰することができなかった。」(人類のあけぼの下巻 431)

- b. アムノンが処罰された方法について、わたしたちは何を悟るべきですか (サムエル記下 13:28, 29, 32; 箴言 29:15)。

「アムノンは、ダビデの他の王子たちと同様に、かつてなことをするままに放任されていた。彼は、神の要求が何であろうと、彼のすべての欲求を満たそうとしていた。神は、彼が大きな罪を犯したにもかかわらず、彼を長く忍ばれた。彼は、二年の間、悔い改める機会が与えられていた。しかし、彼は、罪の生活を続け、罪あるままで殺されて、恐ろしい審判にあずかる身となった。……

両親または支配者が、罪惡を罰する義務を怠るならば、神ご自身がその事件の処理に当たられる。こうして、惡の勢力を押えていた制止力が、いくぶんか除かれて、罪をもって罪を罰するようなできごとが起こるのである。」(人類のあけぼの下巻 432)

- c. ダビデはアブサロムの犯罪を、どのように扱いましたか (サムエル記下 13:38, 39; 14:21-24, 28)。

「ダビデは、むすこの犯罪に何かの罰を与える必要を感じて、彼が帰ってくることを禁じた。……

〔ダビデ〕は、この美しい才能あるむすこを深く愛してはいたが、アブサロムと国民とに対する教訓として、このような犯罪に対する憎惡を示さねばならないと考えた。アブサロムは、自分の家で二年を過ごし、宮廷からは追放されていた。」(同上 434)

3. カリスマ性、魅力…そして謀反

- a. どのような要素が、アブサロムを民にとって魅力的にしましたか。また彼はこれらをどのようにする賢く自分の有利に用いて疑念をいだかない王が徐々に自分を歓迎するようにしましたか (サムエル記下 14:25, 26; 15:1-6)。

「ダビデは、自分自身が神の律法を犯したことを、深く脳裏に刻まれていたために、道徳的まひ状態に陥ったものと思われる。彼は、罪を犯す以前は、勇敢で決断力に富んでいたのに、今は弱く、優柔不断になっていた。彼の人々に及ぼす影響も弱まった。…

〔アブサロム〕は妹といっしょにいた。そして、それは、彼女のこうむった取りかえしのつかない不当な扱いを常に思い起こさせた。国民一般の評価するところから見れば、王子は、犯罪者ではなくて、英雄であった。…アブサロムのように、野心家で衝動的で激しやすい性質の人間を、二年間も閉じこめておいて自己の非運を嘆かせることは、王にとって賢明ではなかった。そして、エルサレムに帰ることを許しながら、彼が王の前に出ることをダビデが拒んだために、人々の同情が彼に集まった。…

アブサロムは、ヨアブを介して、もう一度父の前に出ることを許された。しかし、表面の和解は成立したように思われたものの、彼の野心的策動は続いた。彼は、戦車と馬、および自分の前に駆ける者五十人を備えて、自分が王であるかのようにふるまった。そして、王は、次第に人を避け、孤独を好むようになる一方においてアブサロムはなんとかして人心を獲得しようと努めた。

ダビデの無関心と決断の欠如は、彼の家来たちにも影響を及ぼし、裁判の執行はなおざりにされ、遅々としてはかどらなかった。アブサロムは、巧みに人々の不満を利用した。この気高い容貌の男は、毎日、多くの嘆願者たちが、苦情の解決を求めて群がる町の門に姿を現わした。アブサロムは、彼らの中に混じって、彼らの苦情を聞き、彼らの苦難に同情し、政府の無能を嘆いた。……〔サムエル記下 15:3, 5 参照〕

王子の巧みな暗示に刺激されて、政府に対する不満が高まった。すべての人々が、アブサロムを賞賛した。彼は、人々から、王位の継承者だと思われていた。人々は彼をこの高い地位に適した人物として誇りに思っていた。そして、彼を王位につけようとする希望が燃え上がった。〔サムエル記下 15:6 引用〕。それにもかかわらず、むすこを盲目的に愛していた王は、なんの疑念もいかなかった。アブサロムが王子らしくふるまっていることは、ダビデの宮廷に対する栄誉であ…るとダビデは考えていた。」(人類のあけぼの下巻 434, 435)

4. 危機に達する

- a. アブサロムの偽善的な策略を説明しなさい (サムエル記下 15:7-12; 詩篇 55:21)。

「アブサロムの欺瞞行為の頂点は、王の目をくramsだけでなく、人々の信頼を
かち得て、神によって選ばれた王に彼らを反逆させることであった。」(人類のあけ
ぼの下巻 436)

- b. ダビデにもたらされた驚愕すべき知らせと、彼が取った戦略的過程を述べなさい
(サムエル記下 15:13-17)。この行動を取った彼の高貴な目的は何でしたか。

「ダビデは、この大危機にあたって、これまで長く彼をおおっていた陰うつな気
持ちを払いのけて、彼の若いときの精神をもって、この恐ろしい緊急事態に当面す
る準備をした。アブサロムは、わずか 20 マイル離れたヘブロンで、彼の軍勢を結
集していた。反逆軍は、間もなくエルサレムの門に迫ってくるのであった。

ダビデは、王宮から『うるわしく、全地の喜びであり、大いなる王の都である』
彼の都をながめた (詩篇 48:2)。ここで、大虐殺と破壊が行なわれることを考えて、
彼は身震いした。今でもなお、王に忠誠を誓っている国民の援助を求めて、彼の
都を防衛すべきであろうか。エルサレムで多くの血が流されることを許してよいで
ろうか。彼は決心した。選ばれた都を、戦争の惨事に陥れてはならなかった。彼は、
エルサレムを去ろうと思った。そして、人々に彼を支持する機会を与えて、彼らの忠
誠をためそうと思った。この大危機に当たって、神が彼に与えられた権威を維持す
ることが、神と民とに対する彼の義務であった。戦いの結果は、神に任せようと彼
は思ったのである。」(同上 436, 437)

- c. この悲劇的な時に、ダビデは、特にガテ人イッタイのように忠実な人々によって、
どのように慰められましたか (サムエル記下 15:18-23; ミカ 7:8)。

「ダビデは、彼独特の無我の精神から、彼の保護を求めて集まっていたこれらの
異邦人が、彼の不幸に巻き込まれることを承知しなかった。……この人々は、異教
から主の礼拝に改宗したのであった。そして、彼らは、ここで、神と王とに対してり
っぱに忠誠を尽くしたのである。ダビデは、一見、没落していく彼に対する彼らの
忠誠を感謝して受け入れ……た。」(同上 437, 438)

5. 苦しみの中での高潔さ

- a. ダビデは神の聖なる箱を自分と共に保持しておきたいと熱心に切望したにもかかわらず、どのような無我の決心をしましたか (サムエル記下 15:24-29)。

「彼は、神の民の指導者として選ばれた者として、厳粛な責任を負わせられていた。……祭司も王も、神の許しを得ないで、そこから神の臨在の象徴を移動させる権威はなかった。そして、ダビデは、彼の心と生活とが、神の戒めと調和していなければならないことを知っていた。さもなければ、箱は、勝利でなくて、災害をもたらすものとなるのであった。彼は、あの大きな罪をいつも思い出していた。彼は、この謀叛が神の正当な罰であると考えた。」(人類のあけぼの下巻 438, 439)

- b. すべての罪人はダビデがこの暗い時に表明した希望によって、どのように慰められることができますか (サムエル記下 15:30; 16:5-12; 詩篇 3:1-3)。

「ダビデは何のつぶやきも口にしなかった。彼が歌った最も雄弁な詩篇は、彼がオリブ山へ登ったときに歌ったものである。」(闘争と勇気 181)

「ダビデがオリブ山をのぼったとき、…主は憐れみ深く彼を見守っておられた。ダビデは荒布を身にまとい、良心に責められていた。自分を低くしたその態度は彼の悔悟を立証していた。涙にむせび、自責に震える声で、彼は神に事情を訴えたのであった。主はその僕をお見捨てにならなかった。自分の息子の反逆に先導された敵から、良心に責められたダビデが命からがら逃げたときほど、無限の愛のみこりに愛しく思われたことはなかった。」(祝福の山 13)

個人的な復習問題

1. なぜ通常は強いダビデが、麻痺した無意識状態のようになったのですか。
2. わたしたちはダビデの家族の生涯の過ちを繰り返さないよう、どのように避けることができますか。
3. どの要素が、教会の中にアブサロムを引き起こすかもしれませんか。
4. この期間のダビデの高潔さの証拠をいくつか挙げなさい。
5. なぜこの苦痛の時でさえ、ダビデは神に信頼することができたのですか。

憐れみと正義という遺産

「神よ、わたしが年老いて、しらがとなるとも、あなたの力をきたらんとするすべての代に宣べ伝えるまで、わたしを見捨てないでください。」(詩篇 71:18)

「ダビデと彼の家に与えられた約束は輝かしく、永遠のかなたを待望し、キリストにおいて完全に実現されるものであった。」(人類のあけぼの下巻 469)

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 444-469

日曜日

3月21日

1. 反逆が鎮圧される

- a. ダビデが戦いのために準備したとき、彼の大きな懸念は何でしたか (サムエル記下 18:1-5)。それでもなお、アブサロムはどのように死ぬことになりましたか (サムエル記下 18:9, 10, 14, 15)。

「王が敵の軍勢をながめたときに、まず考えたことは、この戦いに王冠あるいは彼自身の命がかかっているということではなかった。父の心は、反逆した王子に対する愛とあわれみに満ちていた。」(人類のあけぼの下巻 451, 452)

- b. なぜヨアブはダビデの反応を阻んだのですか (サムエル記下 18:32, 33; 19:1-8)。

「神は、勝ち誇って喜ぶ理由をお与えになったのであった。イスラエルに起こった最大の反逆が鎮圧されたのである。それにもかかわらず、この大勝利は、幾千の勇士の命を犠牲にした犯罪者のための弔いとなったのである。…」

これは、悲嘆にくれた王にとって、きびしく残酷とさえ思われる譴責であったが、ダビデは怒らなかった。彼は、大将の言うことが正しいのを認めて、門において行き、彼の前を通る勇敢な兵隊たちに、勇気と賞賛の言葉をかけて、彼らを迎えたのである。」(同上 454, 455)

2. 祝福と僭越

- a. ダビデが後に継続して示した精神の高潔さの例、そしてまた彼を顧みられた神の保護をあげなさい (サムエル記下 19:18-23; 23:14-17)。

「アブサロムの死後、神はイスラエルの心を、一人の人の心のように、ダビデへと戻された。シメイは屈辱のうちにあったダビデを呪ったが、自分の命を失うことを恐れて、エルサレムに戻るダビデを反逆者のうちから真っ先に迎えた者のなかにいた。…彼の罵倒した行動を目撃していた人々はダビデに彼の命を許さないようにと強く勧めた。なぜなら、彼が主に油注がれた者をのろったからである。しかし、ダビデは彼らを譴責した。彼はシメイの命を救っただけでなく、憐れみ深くも彼を許した。」(霊的賜物 4A 巻 91)

- b. ダビデの王国の完全な回復はすぐでも容易でもありませんでしたが、彼は何を宣言することができましたか (同上 22:1-3, 7, 18, 19, 51)。

- c. 生涯の終わりに、ダビデはどの過ちを犯しましたか (歴代志上 21:1-7)。

「王にこうしたことを行なわせたのは、誇りと野心とであった。人口の調査は、ダビデが王位についたときの王国の微弱な状態と、彼の治世下の力と繁栄との相違を示すことになるのであった。これは、すでに王も民も共に持っていた大きな自己過信を、さらに助長するものであった。〔歴代志上 21:1 引用〕。ダビデの治世下のイスラエルの繁栄は、王の能力や軍隊の力によるものではなくて、神の祝福によるものであった。しかし、王国の軍事力の増強は、イスラエルが、主の能力にたよらず、軍隊にたよっているという印象を周囲の国々に与えるのであった。」(人類のあけぼの下巻 457)

- d. ダビデは人口調査について謙遜に何を悟りましたか (サムエル記下 24:10)。彼は神が自分に与えて下さった選択肢からどのように選びましたか (サムエル記下 24:11-14)。

「〔民〕自身も、ダビデにこうした行為を行なわせたのと同じ罪を心にいだいていた。主は、アブサロムの罪によって、ダビデに罰を与えられたように、ダビデの誤りによって、イスラエルの罪を罰せられた。」(同上 459)

3. 受け入れと退位

- a. なぜ非常に多くの人々が苦しまなければならなかったのですか。また何がダビデのとりなしの効果でしたか (サムエル記下 24:15-17, 21, 25)。

「すみやかな破壊が続いた。7万人が疫病によって滅ぼされた。ダビデとイスラエルの長老たちは最も深い謙遜のうちに、主の御前に嘆いた。主の使がエルサレムを滅ぼすために自分の道を進んでいたときに、神は彼にその死の働きをやめるようにお命じになった。憐れみ深い神は彼らの反逆にもかかわらず、なおもご自分の民を愛しておられた。御使は戦闘衣をまとい、エルサレムに向かって延ばしている手に抜かれた剣を持っているのがダビデと彼と共にいた人々に明らかにされた。ダビデははなはだしく恐れたが、苦悩とまたイスラエルのための憐れみのうちに叫ぶ。彼は羊たちを救って下さるよう神に請う。苦悩のうちに彼は告白する、『わたしは罪を犯しました。わたしは悪を行いました。しかしこれらの羊たちは何をしたのですか。どうぞあなたの手をわたしとわたしの父の家に向けてください』。神はご自分の預言者によって彼に語り、彼に自分の罪のための贖罪をするようにとお命じになる。ダビデは心を込めて働いた。そして彼の悔い改めは受け入れられた。」(霊的賜物 4A 巻 92, 93)。

- b. 晩年に恵みを求めるダビデの祈りは、彼の最後の問題の中でどのように答えられましたか (詩篇 71:9, 18; 列王記上 1:5, 6, 15-21, 32-35, 39)。

「[アドニヤ] は、今、ソロモンを王位に任命された神の権威に反逆したのである。ソロモンは、素質においても、宗教性においても兄よりは、イスラエルの王になる資格が備わっていた。神の選択が明示されたにもかかわらず、アドニヤにも同情者がいないことはなかった。ヨアブは、多くの犯罪を犯したが、これまで王に忠誠を尽くしてきた。ところが、今彼は、ソロモンに対抗した陰謀に加わった。そして、祭司のアビヤタルもまた加わった。…

ダビデはすぐに退位して、ソロモンに王位を譲った。ソロモンは、さっそく油を注がれて王であることを宣言された。陰謀は粉碎された。その主要人物は死刑に処せられた。……ヨアブとアドニヤも一時刑を免れたが、ダビデの死後、彼らは罪の罰を受けた。ダビデの子に対する宣告の執行によって、四倍の刑罰がここに完了し、父の罪を神がどんなに憎まれたかを示したのであった。」(人類のあけぼの下巻 460, 461)

4. 信仰の嗣業

- a. ソロモンのためのダビデの助言を説明しなさい。また彼の生涯の終わりにおいて、何が最も深い懸念でしたか（列王記上 2:1-4; 歴代志上 28:9）。

「ダビデはソロモンのために最大の心配を感じた。…彼は経験から主がどんな場合も悪行を、それが最も高い君のうちに見いだされても、あるいは最も低い臣下のうちに見いだされても、容認なさることはないこと、かえってご自分の民の指導者には、その地位が身分の低い臣下よりも責任が重いために、もっと厳しい刑罰をもって臨まれることを学んでいた。イスラエルの指導者たちによって犯された罪は、民の思いや良心に対して犯罪の悪質さを減じる感化を及ぼし、神を恐れずこのお方の権威を踏みじじる他の諸国家に知られることになる。そして彼らはイスラエルの神を冒瀆するように導かれるのである。ダビデは自分の息子に神の律法を厳守し、このお方のすべての定めを守るようにと厳粛に命じた。」（靈的賜物 4A 巻 94, 95）。

- b. その他何に、いまダビデの焦点は当てられていましたか（歴代志上 28:10, 20; 29:3, 9）。

「主はご自分の御使を通してダビデに教え、彼にソロモンが主のために建設することになる家の型をお与えになった。御使は、ソロモンの益のために、家の配列に関して重要な指示をダビデが書いている間、かたわらに立つよう任命されていた。ダビデは心を込めて働いた。彼は建物のために大規模な準備をすることに熱心さと献身を表した。そして労力も費用も惜しまず、自分自身の宝庫から大きな寄付をし、それによって自分の民の前に高尚な模範を示した。その模範に彼らはためらわずに喜んで従った。」（同上 94）

- c. ダビデの模範はどのように高齢者を鼓舞することができますか（詩篇 71:1; 119:132, 133）。

「ダビデは、自分の事業を整えることにおいて、年の進んだすべての人のために良い模範を残している。自分たちができる間に自分の問題を片付け、彼らが死に近づくとき、彼らの知能がおぼろげになるとき、彼らには神から自分たちの思いをそらせる世俗的な性質のものが何もないのである。」（同上 96）

5. 終わりの時代のためのメッセージ

- a. サムエル記下 7:16 にある約束はどのように成就しますか (ルカ 1:30-33; 使徒行伝 2:29-36)。
- b. この地上歴史の終わりの時代に特有の重要性のあるどのメッセージが、ダビデによってしたためられましたか (詩篇 119:17, 18, 33-40, 126, 127)。

「人は、継続的な忠告の下で、神がご自分の誉れのために立ち上がって擁護しなければならないとご覧になるところまで悪のうちに遠くまで行くことも可能である。これがこの地上歴史の現代の時代である。あらゆる度合いの犯罪がますます顕著に表れつつある。地上は人類同胞に対する暴力に満ちている。

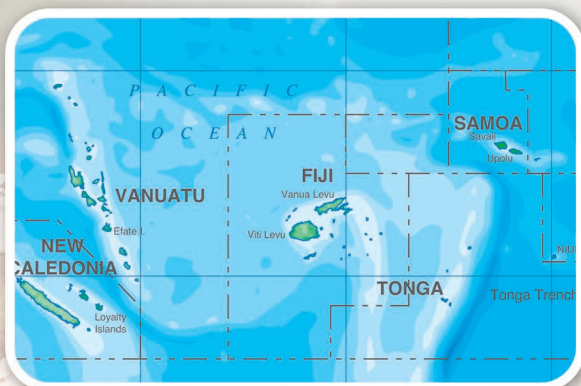
教会はどの立場に立つてであろうか。過去に神の律法を尊重してきた人々は、悪の潮流におぼれるのであろうか。ほとんど全世界的な神の律法に対する不法と侮辱が魂の霊的な大気を一様に暗くしてしまうのであろうか。神の律法の軽視が、保護の防壁を一掃するのであろうか。悪と不法が蔓延するからといって、神の律法の高い評価が低められるのであろうか。この地上に生存している人々の大部分によって無効にされたからといって、わずかな忠実な者たちがみな同じように不忠実になり、悪人のように行動するのであろうか。彼らはむしろダビデの祈りを捧げないのであろうか。『彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です』。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1153)

「[詩篇 119:17, 18, 33-40 引用]。この主の僕たちのような祈りは絶えずこのお方に捧げられるべきである。この祈りは心と意思の神への献身を表している。それは神がわたしたちになすようにとお求めになっている献身である。」(同上 1152)

個人的な復習問題

1. ダビデへのヨアブの譴責に対する彼の反応から、わたしたちは何を学ぶことができますか。
2. 生涯のどの分野において、わたしはダビデが人口調査において犯したのと同じ罪を犯すように誘惑されるかもしれませんか。
3. ダビデの息子たちに下った四重の裁きを数え上げなさい。それはどのようにわたしたちに警告しますか。
4. ダビデのように、わたしたちはみなどのように老後を精一杯活用することができますか。
5. ダビデは詩篇を通して、今日わたしたちにどのような訴えをしていますか。

第一安息日献金



1月2日

南太平洋ユニオン
ミッションセンターのために
(4 ページ参照)

2月6日

コンゴ民主共和国の
北キブ州のために
(30 ページ参照)



3月6日

世界災害救済金のために
(51 ページ参照)

